

SHINSHU Arts Council 2023 ANNUAL REPORT

信州アーツカウンシル 令和5年度 活動報告

SHINSHU Arts Council 2023 ANNUAL REPORT

信州アーツカウンシル
令和5年度 活動報告





**SHINSHU
Arts Council
2023
ANNUAL REPORT**

信州アーツカウンシル
令和5年度 活動報告

SHINSHU Arts Council 2023 ANNUAL REPORT

信州アーツカウンシル令和5年度活動報告 目次

- 03 ご挨拶
- 04 信州アーツカウンシルとは
- 06 令和5(2023)年度事業の概略
- 09 活動基盤強化プログラム・令和5年度アーツカウンシル助成事業の概要

Aプログラム 活動推進支援

- 10 **A-01** 合同会社 ARTWINGLABEL
- 11 **A-02** 株式会社 R-DEPOT CAMPプロジェクト
- 12 **A-03** 麻倉Arts&Crafts
- 13 **A-04** 一般社団法人 阿智村全村博物館協会
- 14 **A-05** 特定非営利活動法人 いいだ人形劇センター
- 15 **A-06** 特定非営利活動法人 F.O.P
- 16 **A-07** おやこのカラダ
- 17 **A-08** 劇団野らぼう
- 18 **A-09** 坂城町を音楽で満たす会
- 19 **A-10** 特定非営利活動法人 サポートC
- 20 **A-11** 振動興業
- 21 **A-12** ちいさがた未来民話研究会
- 22 **A-13** 一般社団法人 ツキカラカエル
- 23 **A-14** Torus Vil.
- 24 **A-15** どんどう流百鬼ゆめひな
- 25 **A-16** 特定非営利活動法人 ながのアートミーティング
- 26 **A-17** 人形芝居燕組
- 27 **A-18** ネイチャーピアノ
- 28 **A-19** 特定非営利活動法人 ふるさと芸能研究所
- 29 **A-20** 文化の場づくりを目的に 何かやってみるチーム(ブンカバ)
- 30 **A-21** NPO法人 WHITE CANVAS
- 31 **A-22** むらびとアートプロジェクト
- 32 **A-23** もんぜん千年芸術祭実行委員会
- 33 **A-24** やまびこらぼ
- 34 **A-25** 特定非営利活動法人 夢空間松代のまちと心を育てる会
- 35 **A-26** 特定非営利活動法人 リベルテ
- 36 **A-27** わかち座

Bプログラム 活動基盤強化支援

- 37 **B-01** 特定非営利活動法人 アイダオ
- 38 **B-02** 一般社団法人 大昔調査会
- 39 **B-03** 木曾ペインティングス
- 40 **B-04** 特定非営利活動法人 劇空間夢幻工房
- 41 **B-05** 特定非営利活動法人 原始感覚舎
- 42 **B-06** 株式会社 さきわいクレアシオン
- 43 **B-07** 一般社団法人 シアター&アーツうえだ
- 44 **B-08** まつもとフィルムコムズ
- 45 **B-09** まるっとみんな準備室
- 46 **B-10** 一般社団法人 ○と編集社

- 48 連携・協働プログラム(Shinshu Arts-Climate Camp)
- 50 連携・協働プログラム/社会包摂(インクルーシブ)プログラム
- 52 地域創造・交流プログラム(NAGANO ORGANIC AIR)
- 56 地域創造・交流プログラム(シンビズム)
- 60 [コラム]地域アーツカウンシルを介した共創の構造
- 62 その他の取組

ご挨拶

私たち信州アーツカウンシルは、本年(令和5)年度を無事に乗り越えることができました。これは長野県内において活動する文化芸術の担い手の皆さんをはじめ、関わっていただいた関係者の方々の文化芸術また地域文化への熱い思い、地域を次代へつなげていこうという強い思い、その思いを込めた皆様の力添えのおかげだと感謝申し上げます。

信州アーツカウンシルのスタート時に掲げた「長野県全域において文化芸術活動の創造力・発信力を高める」「文化芸術活動のポテンシャルを社会の様々な領域に拡げる」「長野県内の文化芸術活動が持続的に発展する環境を醸成する」という3つのミッションをもとに、本年度も県内外の多様な方々とともに、自治的で豊かな環境づくりや、民俗芸能や祭りといった伝統文化の継承など、文化芸術を媒介としてさまざまな地域の課題に向き合いながら、その解決の糸口となるために、助成支援や主催事業などのプログラムに取り組むことができました。

具体的には、信州大学人文学部との連携・協働プログラムとして、気候変動をはじめとする環境問題に対して文化芸術が果たす役割を問う新たなプロジェクト「Shinshu Arts- Climate Camp」をスタートしました。県内のアート団体が銘々自由に環境とアートをテーマにした取組＝〈キャンプ〉を行ったほか、信州大学をはじめ県立美術館や上田映劇、また奏の森など県内5ヶ所でそれぞれにテーマを設定した〈会議〉および〈総会〉を実施しました。一見、気候変動とアートの関係性は見出しにくいと感じられると思いますが、CO2の排出を最小限に考慮した作品や、環境問題について人々に直接問いかける作品の創造、そして、作品制作のプロセスや美術館・劇場等の施設運営についての環境意識改善など、文化芸術が率先して行うことの影響と責任は小さなものではないはずです。また、地域創造・交流プログラムでは、本年度も地域の担い手の方々と協働のもと、県内5ヶ所においてアーティストによる滞在制作を実施した「NAGANO ORGANIC AIR」や、県内美術館の学芸員が所属を超えて交流し、信州ゆかりのアーティストを紹介する展覧会「シンビズム5」を開催することが出来ました。

これらのプログラムのほかに、県内の文化芸術団体や地域を育むために活動されている担い手の方々にに対し、事業の推進と継続に対し助成支援を行う「活動基盤強化プログラム」では、今年度も専門スタッフが事業の終了まで伴走する寄り添い型の支援として37件の事業を採択しました。伝統文化の継承や地域の記憶を繋ぐ映像の制作から、ゼロカーボンを目指す演劇公演、またコロナ禍以降増大した不登校の子どもたちに対し、地域の資源である文化施設を活用した事業など、多様な文化事業を積極的に行う県内の民間団体に対し、支援させていただくことができたことは、県内で実施されている活動やその担い手のネットワーク化をより高めることとなり、地域社会の創造の糸口を提供できたものと信じています。

このとおり、我々にとっても新しい出会いや発見があった1年となりました。今後もさまざまな担い手の方々と団体と連携・協働させていただくことで、文化芸術の持つ力をいかし、気候変動や情報技術の進歩、社会の分断という大きな課題から身近な営みの課題まで、積極的に立ち向かっていく思いを強く感じることができました。

来年度も引き続き、地域主体・県民主体による創造的な地域づくりを推進していきます。地域の担い手の方々をはじめ信州アーツカウンシルにご協力いただいた皆様に感謝するとともに、引き続きのお力添えをお願いいたします。

信州アーツカウンシル長
津村 卓



信州アーツカウンシルとは

About SHINSHU Arts Council

アートを身近に 暮らしをゆたかに 様々な人が文化を創り 支え合う

信州アーツカウンシルは、地域の文化芸術活動の担い手を支援しています。自然豊かな風土や学びを大切にする精神などから育まれる、信州・長野県の多様な地域文化や文化芸術の創造性を、持続的に発展させていくことを目的に、令和4(2022)年に始動しました。長野県、大学、公的機関、民間支援団体、市町村など、多様な主体がゆるやかに連携しながら、一般財団法人長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進局が運営主体となり、地域・県民主体で行う文化事業の助成、相談・助言などの寄り添い型の支援を行っています。



広い県土に多様な地域性を有する長野県のアーツカウンシルとして、2つの観点を重視した文化芸術の環境づくりを進めています。

文化芸術活動の「担い手」を支援する

文化芸術の場を開く「担い手」を広くとらえ、表現者、参加者、企画・運営者、支援者など、さまざまな人たちを支援します。

信州の多様な文化芸術を、多様な主体が支える

県、大学、民間支援団体、市町村、個人、さまざまな主体が連携し、長野県の多様な地域文化を支援する環境づくりを行います。

これらの活動を通して、**3つのミッション**を達成していきます。

Mission 01

長野県全域において文化芸術活動の創造力・発信力を高める。

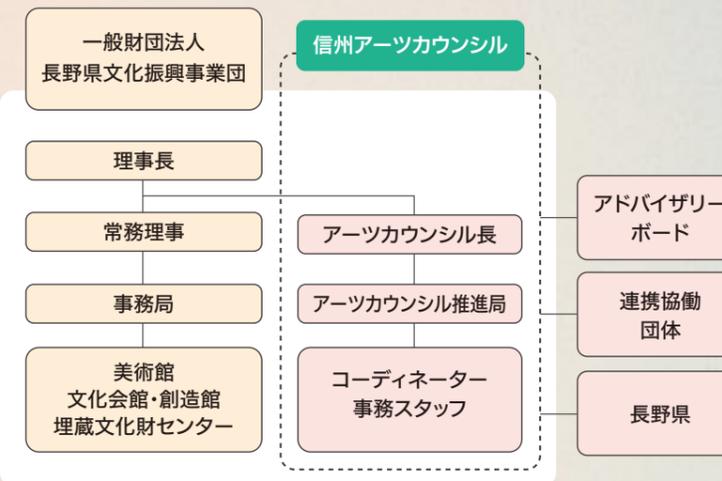
Mission 02

文化芸術活動のポテンシャルを社会の様々な領域に拡げる。

Mission 03

長野県内の文化芸術活動が持続的に発展する環境を醸成する。

組織図



令和5年度 信州アーツカウンシル アドバイザリーボード

- 金井直 信州大学人文学部 教授 ※2023年8月着任
- 辻野隆之 茅野市民館指定管理者株式会社地域文化創造 シニアディレクター
- 山本麻友美 京都芸術センター副館長/京都市文化政策コーディネーター ※2024年1月着任
- 若林朋子 プロジェクト・コーディネーター/立教大学大学院教員
- 吉本光宏 合同会社文化コモンズ研究所 代表 ※2023年6月退任
- ロジャー・マクドナルド NPO法人 Arts Initiative Tokyo プログラムディレクター ※2023年12月退任

令和5年度 信州アーツカウンシル スタッフ

■ アーツカウンシル長

津村 卓(つむら たかし)

1956年大阪市生まれ。一般財団法人地域創造芸術環境部プロデューサー。国内各地の公立劇場の運営に携わり、2016~20年3月上田市サントミュージゼ館長。2016~21年長野県芸術監督(プロデュース)、2020~21年度長野県芸術監督団事業総合プロデューサー。

■ アーツカウンシル推進局

【コーディネーター(専門スタッフ)】

ゼネラルコーディネーター | 野村 政之(のむら まさし)

1978年生まれ。長野県塩尻市出身。舞台芸術の創作現場と公的文化芸術支援に並行して携わる。公共ホール、民間劇場・劇団制作部、沖縄アーツカウンシルプログラムオフィサーを経て2018~22年3月長野県県民文化部文化政策課文化振興コーディネーター。

チーフコーディネーター | 伊藤 羊子(いとう ようこ)

1994年より(一財)長野県文化振興事業団学芸員として長野県立歴史館、長野県信濃美術館等での企画事業のほか、館外での普及事業を推進。2016年より「信州ミュージアム・ネットワーク事業」や、長野県芸術監督団事業「シンビズム」の制作を担当。

コーディネーター | 佐久間 圭子(さくまけいこ)

長野県松本市出身。大阪芸術大学映像学科卒業後、テレビ朝日報道局、信州大学地域戦略センター、株式会社エイブルデザイン、信州地域デザインセンター(UDC信州)を経て現職。公・民・学さまざまな立場で情報発信やデザイン制作を軸にした地域づくりに携わる。

コーディネーター | 藤澤 智徳(ふじさわ ともり)

1993年生まれ。長野県中野市出身。大学在学中よりダンス公演や芸術祭の企画制作やドラマツルクとして活動。民間商業劇場を経て、2019年より(一財)長野県文化振興事業団で長野県芸術監督団事業に従事。おもに「NAGANO ORGANIC AIR」の制作を担当。

コーディネーター | 小野 佳奈(おの かな)

東京学芸大学教育学部在学中より、美術館の教育普及事業や学校へのアウトリーチ活動に携わる。(公財)福武財団(地中美術館・李禹煥美術館)を経て、学芸員として改修工事休館中の広島市現代美術館に勤務。2023年5月~2024年2月、コーディネーターとして勤務。

【事務スタッフ】

局長 | 峯村 高広(みねむら たかひろ)

長野県長野市出身。1995年長野県庁入庁。2022年4月より派遣。

次長 | 宮本 隆希(みやもと たかき)

長野県須坂市出身。2008年長野県庁入庁。2022年4月~2024年3月派遣。

主事 | 保谷 有美(ほや ともみ)

長野県長野市出身。2022年7月より勤務。

令和5(2023)年度事業の概略

01 活動基盤強化プログラム

令和5年度アーツカウンシル助成事業

「文化芸術活動の創造性を生かす環境づくり支援プログラム」 ▶▶▶ P9

長野県の文化芸術の持続的な発展に資する可能性があり、チャレンジ精神や創意工夫の見られる活動で、自らの問題意識に基づいて、社会における課題を設定し、さまざまな人や組織との連携・協働を行いながら取り組む活動を支援。

募集期間 | 令和5(2023)年2月8日～3月10日

事業期間 | 令和5(2023)年4月21日～令和6(2024)年2月29日

支援総額 | 33,986,513円

種類	想定する活動・支援	上限額 助成率	応募数	採択数
A 活動推進支援 プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域における文化芸術活動の定着や新たな実施 ● 収益性に馴染まないが、他分野への波及が期待できる活動の立ち上げ支援 など 	500,000円 10/10以内	65	27
B 活動基盤強化 プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ● 他分野や県内他地域に展開し、県内での新たな活力創出に取り組むもの ● 定着や自走の可能性のある活動を寄り添い型で支援 など 	3,000,000円 1/2以内 (一般管理費 15%以内)	28	10



やまびこラボ (A 活動推進支援プログラム)



木曾ペインティングス (B 活動基盤強化プログラム)



特定非営利活動法人ふるさと芸術研究所
(A 活動推進支援プログラム)



まるっとみんなで準備室 (B 活動基盤強化プログラム)

02 連携・協働プログラム

信州大学人文学部との協働

▶ P48

- 学生への講義 (4月17日)
- Shinshu Arts-Climate Campの実施



他地域のアーツカウンシルとの協働

[アーツコミッション・ヨコハマとの共同企画]

▶ P50

- 「文化の多様性と暮らしのゆたかさは関係がある～地域の循環を見つめ直すアートの営み from NAGANO」の実施 (2月1日)
- 「令和の横浜使節団」の受入れ (3月1日@上田市、3月2日@長野市)



伝統文化の支援に向けた連携体制構築

- 南信州民俗芸能継承推進協議会、公益財団法人八十二文化財団との協働
- 第2回南信州民俗芸能フェスティバルへの協力 (2月17日)
- 「南信州の祭り・民俗芸能の継承についての座談会 vol.1」開催 (3月23日)



文化芸術に対する寄付促進に向けた取組

公益財団法人長野県みらい基金との連携
(信州の特色ある学び応援事業など)

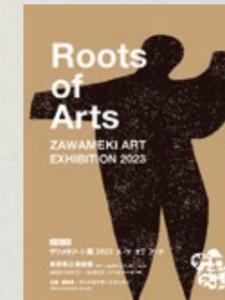
03 社会包摂(インクルーシブ)プログラム

[ザワメキサポートセンター]

(長野県障がい者芸術文化活動支援センター／社会福祉法人長野県社会福祉事業団)との協働

▶ P51

- 連携会議を毎月開催し、情報共有と意見交換を行う
- ザワメキアート展を共催・広報支援



04 地域創造・交流プログラム

NAGANO ORGANIC AIR2023 ▶ P52

- 県内5地域に4組6名のアーティストが滞在し、ホストのコーディネートにより、地域と有機的に関わりながら活動を展開
- ウェブサイトをリニューアルし、県内のAIR情報を集約



シンビズム5 ▶ P56

- 県内4会場にて県ゆかりのアーティストを取り上げた展覧会を開催
- 各会場にてギャラリートーク、公開制作、ワークショップなど実施
- 事業報告会および対話鑑賞研修を実施 (2月26日)



05 情報発信・認知度向上の取組 ▶ P62

- 信州アーツカウンシルウェブサイトの公開
- 銀座NAGANO(東京)での移住定住・関係人口づくりのイベント開催 (5月/24年3月)
- 「信州アーツカウンシル2023」交流会の開催 (6月10日)
- 信州アーツカウンシルプレス向け説明会の開催 (10月4日)
- 「北アルプスの麓で暮らし・働く大相談会2023」へのブース出展 (11月18日)
- 「ART JOB FAIR2024」へのブース出展・登壇 (1月27～28日)



令和5(2023)年度事業の活動拠点

相談・助言 117 団体
 助成先 37 団体
 主催事業での支援・連携 64 団体

- A 活動推進支援プログラム
- B 活動基盤強化プログラム
- 連携・協働プログラム
- 社会包摂(インクルーシブ)プログラム
- 地域創造・交流プログラム(NOA)
- 地域創造・交流プログラム(シンビズム)
- 情報発信・認知度向上

信州アーツカウンシルが
 令和5(2023)年度に
 支援等で関係した団体数
218 団体

山ノ内町 SBS シンビズム2023

- 長野市
- A-02 株式会社 R-DEPOT CAMPプロジェクト
 - A-16 特定非営利活動法人 ながのアートミーティング
 - A-23 もんぜん千年芸術祭実行委員会
 - A-25 特定非営利活動法人 夢空間松代のまちと心を育てる会
 - B-04 特定非営利活動法人 劇空間夢幻工房
 - B-06 株式会社 さきわいクリアシオン
 - 連携 Shinshu Arts-Climate Camp
 - 包摂 ザワメキアート展
 - SBS シンビズム2023

- 須坂市
- A-11 振興興業
 - 連携 Shinshu Arts-Climate Camp

- 上田市
- A-12 ちいさがた未来民話研究会
 - A-26 特定非営利活動法人 リベルテ
 - B-01 特定非営利活動法人 アイダオ
 - B-07 一般社団法人 シアター&アーツうえだ
 - 連携 Shinshu Arts-Climate Camp
 - 連携 令和の横浜使節団受入れ

坂城町 A-09 坂城町を音楽で満たす会

小谷村 NOA 森との関わり/地域と地球の未来

- 大町市
- A-03 麻倉Arts&Crafts
 - B-05 特定非営利活動法人 原始感覚舎
 - NOA くるよん60市街地シャッターアート

- 安曇野市
- A-21 NPO法人 WHITE CANVAS
 - NOA 続・踊るからだで見つめる 安曇野のくらし

- 松本市
- A-01 合同会社 ARTWINGLABEL
 - A-07 おやこのカラダ
 - A-08 劇団野らぼう
 - A-14 Torus Vil.
 - A-17 人形芝居燕組
 - A-24 やまびこラボ
 - B-08 まつもとフィルム commons
 - 連携 Shinshu Arts-Climate Camp

木曽郡 B-03 木曽ペインティングス

- 伊那市
- A-18 ネイチャーピアノ
 - A-19 特定非営利活動法人 ふるさと芸術研究所
 - SBS シンビズム2023

辰野町 B-10 一般社団法人〇と編集社

宮田村 A-22 むらびとアートプロジェクト

飯島町 A-15 どんとろ流 百鬼ゆめひな

- 中川村
- A-06 特定非営利活動法人 F.O.P
 - 連携 Shinshu Arts-Climate Camp

下條村 連携 第2回 南信州 民俗芸能フェスティバル

阿南町 連携 「和合の念仏踊り」聞き取り調査

阿智村 A-04 一般社団法人 阿智村全村博物館協会



東御市 SBS シンビズム2023

軽井沢町 B-09 まるっとみんなで準備室

小諸市 A-27 わかち座

小海町 SBS シンビズム2023

- 東京都
- 発信 銀座NAGANO(東京)での移住定住・関係人口づくりのイベント開催
 - 発信 「北アルプスの麓で暮らし・働く大相談会2023」へのブース出展
 - 発信 「ART JOB FAIR2024」へのブース出展・登壇

- 横浜市
- 連携 旅する信州アーツカウンシル「学ぶ・つながるフィールドワーク」トライアル 横浜編
 - 連携 文化の多様性と暮らしのゆたかさは関係がある～地域の循環を見つめ直すアートの営み from NAGANO

- 茅野市
- A-10 特定非営利活動法人 サポートC
 - NOA みちのちのダンススケープ

- 諏訪市
- A-20 文化の場づくりを目的に何かやってみるチーム(ブンカバ)
 - B-02 一般社団法人 大昔調査会

富士見町 A-13 一般社団法人 ツキカラカエル

- 大鹿村
- NOA 「簡単じゃない。だから、面白い。」大鹿村アーティスト・イン・レジデンス

- 飯田市
- A-05 特定非営利活動法人 いいだ人形劇センター
 - 連携 南信州の祭り・民俗芸能の継承についての座談会vol.1

活動基盤強化プログラム

Program A 活動推進支援

▶ P10

Program B 活動基盤強化支援

▶ P37

01

合同会社 ARTWINGLABEL 高齢者の方々のことばプロジェクト



1



2

1 ARTWINGLABELでは高齢者配食サービスも行っている
2 制作したZINE「えんがわ」

団体所在地 | 松本市 [MAP](#) **A01**

団体概要

音楽制作会社として設立、現在では高齢者配食サービスも運営し、配食に並行して日々の見守り活動を行っている。音楽も含めた社会貢献事業として持続可能な形を模索している。

活動内容

- 7月
取材開始
- 10月
ZINE「えんがわ」0号発行（300部配布）
- 10～12月
音楽作品「My Husband」制作
- 11～12月
音楽作品「Smile Smile」制作

- 2024年1月
ZINE「えんがわ」1号（700部配布）
- 2024年2月
NBS長野放送にて取組が取材され報道

コーディネーターより

ユニホームを着て配達に同行させて頂き、よく知る風景の中に実は高齢者の方がひとり暮らししているのを自分の目で見た。いろんな思いが湧いてきた。いまの現実を捉えたアート、誰もひとごとでない。(野村政之)

“同じ釜の飯を食う”高齢者の新たな「コミュニティ」

本事業は、松本市内に住む、行動に制約があるひとり暮らしの高齢者に、配食サービスを通して、高齢者の方の様々な表現・作品、言葉から作った楽曲を掲載したZINE(小冊子)を制作し配布するというものだ。

合同会社ARTWINGLABELは音楽活動と高齢者配食の事業を行っている。日々の高齢者配食は安否の見守りを兼ねた業務となっており、スタッフは配達で訪ねた際に救急車を呼ぶような事態も経験している。週に1,2回のデイサービス以外は外出の機会のない皆さんの暮らしに触れて、在宅での表現と交流の楽しさを提供しようと考えた。ミュージシャンの心が、配食を通して、ひとり暮らしの高齢者の現実と出逢ったのだ。

紙のZINEを作成して配布する。オンラインですぐに伝わる情報社会の現在、個人情報の共有には様々な規制があり、高齢者のプライバシーは守られている。逆に言えば、新たな触れ合いが生まれにくい環境ができあがっており、高齢者自ら孤立的な状況を変えることは難しい。そこへ、配食で日々対面するスタッフが安心を基礎に、紙面に掲載する内容を一人一人と調整し、ZINEをオフラインで手渡す、という形でハブになり、ゆるく切断され繋がったコミュニティでの、新たな触れ合いを実現している。

果たして、今年度発行されたZINE「えんがわ」は配食利用者とケアに関わる人たちの間で大反響となった。「この作品の人に会ってみたい」等の熱のある気持ちが高齢者に芽生え、想定を越えた賞賛の声が上がっている。

この取組には、これから更に進む高齢社会とどのように見て、渡り合っていくべきか、そのヒントが多く埋め込まれているように思われる。探求はまだ始まったばかりだ。

02

株式会社 R-DEPOT CAMPプロジェクト まちの部活動



1



2



3

1 音楽部 ちいさな文化祭でのライブ @R-DEPOT
2 古典芸能部 寄席 @本願寺長野別院本堂
3 美術部 部活動の様子 @東町ベース

団体所在地 | 長野市 [MAP](#) **A02**

団体概要

長野市のまちづかいの拠点「R-DEPOT(アールデポ)」。CAMPプロジェクトチームは門前のまちで、人や文化、建物の面白いつながり方を模索し、まちの人といっしょに実践していくことを目指しています。

活動内容

音楽部
バンドマスター | 額田大志(作曲家、演出家)
活動場所 | ネオンホール
活動日時 | 8/29・9/28・10/31・11/24
12/26・2024/1/30

美術部
部長 | 角居康宏(美術家)
活動場所 | 東町ベース、公園など
活動日時 | 7/15・8/26・9/16・10/28・11/18
12/16・2024/1/20・2/17

古典芸能部
コモン | 快樂亭狂志(落語家)
活動場所 | 本願寺長野別院
活動日時 | 7/12・8/9・9/13・10/11・11/8
12/13・2024/1/10・2/14

ちいさな文化祭
会場 | R-DEPOT 1F~3F各所
日時 | 2024/2/10 12:00~

コーディネーターより

所属や世代に縛られず、興味関心を共有する人がまちに集ってゼロから作りあげる部活動というチャレンジ。新たなコミュニティ作りの実践としてとても興味深かった。(佐久間圭子)

中学生から大人まで自由に集い楽しむ部活動

長野市のまちづかい拠点「R-DEPOT」がアーティストを交えた文化活動による、まちのコミュニティづくりとして、門前、権堂、表参道をベースに音楽部・美術部・古典芸能部の3つの部活動をスタート。中学生から70代まで総勢41名の部員が集った。

音楽部はネオンホールを活動拠点とし、令和4(2022)年度信州アーツカウンシル主催事業NAGANO ORGANIC AIRで滞在した音楽家・額田大志氏がバンドマスターとなって結成した大所帯バンド「たまに葡萄」をベースに、「音楽部」を新たに編成し、これまでの楽曲の練習やオリジナルソング制作に取り組んだ。

美術部は美術家の角居康宏氏が部長になり、東町ベースの大きなテーブルを部員で囲み制作をするスタイルの活動で、対話を重ねながら互いの作品を見て意見を交わし交流を深めていった。

古典芸能部はコモンとして快樂亭狂志氏を迎え、本願寺長野別院本堂を会場とした寄席開催を目標に狂志師匠との稽古の時間を軸に学びを深めたり、部員同士で集まり自主稽古を行うことで技術を高め合っていた。

ちいさな文化祭

2月には各部活動の発表の機会として、R-DEPOT全館を使った「ちいさな文化祭」を開催した。実施にあたり、シェアオフィス入居者や近隣住民の方から協力を得たことで、R-DEPOTがオープンしてから最も大規模に施設を生かしたイベントとなった。「文化祭」という、敷居が低く関わりしろが広い文化芸術が接点になり、まちと人が関わる時間をとても上手に生み出していたことが印象的な事業となった。

麻倉Arts&Crafts

誰もが持っている創造する楽しさを引き出す
～アートに夢中になる!プロジェクト



1 白い部屋におもいきり絵を描く／2 絵を切り取って額に入れアート作品を作ろう
3 麻倉アートブック

白い部屋に自由に大きな絵を描く

大町市のアート拠点「麻倉Arts&Crafts」では年間を通じて様々な企画でユニークな創作活動に取り組んでおり、昨年度に引き続き「白い部屋におもいきり絵を描く」の企画をバージョンアップさせ開催。麻倉の2階をすべて白い模造紙で覆い真白い空間に仕立てあげ、大人も子どもも床や壁に好きなだけ自由に大きな絵を描いた。カラフルに仕上がった部屋は約半月一般公開をして自由に遊んだり描き足してもらったり、歌声喫茶ライブを開催して非日常の空間を多くの方と共有しながら存分に堪能した。公開展示最終日には「切り取りART」で自分が描いた部分を丁寧に切り取る人もいれば、自分だけのお気に入りの部分を大胆に額縁につかまえて新たな価値を探し出していた。「白い部屋にいっぱい絵を描こう」に参加した方へ切り取りART参加のチケットを配布したことで多くの参加者が集まりそれぞれでお気に入りを見つけていった。

また中間教室に通う子ども向けに切り抜いて手足の動く紙人形作り体験も開催。これまでさまざまな発想から創作活動をしてきた麻倉Arts&Craftsならではの発展した楽しみ方となった。

遊べる冊子「麻倉アートブック」

麻倉が発行する4冊目の冊子となった今回は、冊子そのもので遊べるアートブックとして、実際に描き込んだり切り貼りをして最終的には世界で1冊の自分だけの本が出来上がる仕組み。昨年度のレシピブックとは違い、麻倉に集まる美術部の面々が出し合ったアイデアで冊子自体で楽しむことができる工夫が詰め込まれた1冊となった。

団体所在地 | 大町市 MAP A03

団体概要

2008年、麻の集積場だった蔵をリノベーションし、クラフト作品紹介や美術を通じた交流場所として出発。2013年、大人の美術部「麻倉美術部」で美術展やクラフト展、音楽会、演劇会、歌声喫茶などさまざまな創作活動を行う。

活動内容

白い部屋にいっぱい絵を描こう
活動日時 | 11/18(土) 11:00-17:00

公開展示
活動日時 | 11/19(日)-12/4(日)

歌声喫茶ライブ
活動日時 | 11/23(日・祝)

切り取りART! 絵を描けない人ほどハマる!
活動日時 | 12/4(日)

紙人形作り
活動日時 | 2024/1/20(土)

麻倉アートブック制作・完成

コーディネーターより

独創的な企画が広がりを見せ、中間教室に通う子どもにも楽しんでもらう機会につながった。アート拠点、コミュニティとして新たな展開となっていくことに期待。(佐久間圭子)

一般社団法人 阿智村全村博物館協会

園原の里 能楽・狂言復興プロジェクト



1 園原の里を歩くガイドツアー／2 園原にある能舞台／3 2月に開かれた能「木賊」講座

阿智村・園原の里の文化資源を活用する協働の試み

阿智村全村博物館協会は、阿智村全体を「屋根のない博物館」とみなし、そこにある歴史や自然、文化、生活を価値ある地域資源と捉えて大事にしていこうという「全村博物館構想」を実現していくために、令和4(2022)年に村民によって設立された。古民家の「つばや」の運営、村民の観光ツアーガイドの育成や、交流イベントのマルシェの開催など地域文化に関わる様々な活動を行っている。

旧東山道の難所、神坂峠の麓にある園原の里は、源氏物語をはじめ多くの古典文学や和歌に刻まれた名跡。この園原にあり、長い間活用されていなかった能舞台を使い、住民が能狂言に親しみながら、園原を舞台とする能『木賊』や周辺の史跡等を文化資源として掘り下げ、地域づくりや観光に繋げていくのが本事業の取り組みだ。

将来、園原能舞台で能『木賊』の上演が実現することを目指しつつ、能に親しみ、演目に対する理解を深めていく目的で、講師に伊那市の観世流能楽師・中家美千代さんを招き、月1回の能教室を継続実施した。また、2月25日に開催した、能「木賊」講座では、観世流能楽師の坂井音晴さんを招き、特別に映像を交えながら「木賊」の演目の見どころ解説、謡の体験なども行った。園原と木賊についての繋がりや、木賊の演目にもつわることなどを、パンフレットとして編集し今後活用出来る形にまとめた。

また園原の里の観光ガイドツアー開催するとともに、新たなガイド研修活動も行い、園原の魅力や、訪れた地域内外の人たちに伝えていけるよう学びの場としている。住民自身が学び、互いに協働して地域の文化資源を掘り下げる、価値づけていく活動が広がって行くことを期待したい。

団体所在地 | 阿智村 MAP A04

団体概要

阿智村の歴史や自然、文化、暮らしを、ここに暮らす一人ひとりが学び、保全し、活用する活動に取り組んでいます。歴史や自然の調査から宿場町の保全、農村体験、マルシェ企画まで。もっと楽しく、もっと自由に。

活動内容

能教室開催
活動日時 | 5月～2月 月1回

園原ガイドツアー
活動日時 | 5/21・6/18

園原ガイドツアー研修
活動日時 | 8/20・9/17・10/15

能「木賊」講座
活動日時 | 2024/2/25
・能とは何かを知るための基礎講座
・能「木賊」の動画を用いた解説
・謡体験
・謡の実演、所作などの実演

パンフレット「園原と木賊」の制作・配布

コーディネーターより

園原の歴史文化を現代に生かす。暮らしに織り込まれた地域の文化を資源に、村民と協働する阿智村全村博物館協会のあり方は「村版のアーツカウンシル」といった見方もできるように思う。(野村政之)

特定非営利活動法人 いいだ人形劇センター
 ”人形劇のまち飯田”から発信
 人形劇の楽しさをつたえ、ひろげるワークショップ



1「うごいて楽しいどうぶつ人形をつくろう」(下條村図書館)
 2「ハンドパペットをつくろう」(飯田文化会館)
 3「ハンドパペットをつくろう」(松川村図書館)

人形劇のまち飯田を全県へと広めていく

“南信州”と呼ばれる飯田市、下伊那郡からなる地域は、神事芸能や獅子舞、地芝居(地歌舞伎)などが継承され、「民俗芸能の宝庫」として知られている。いいだ人形劇センターがある飯田市では、今田人形、黒田人形、伊豆木人形の伝統人形浄瑠璃の座・クラブが複数活動を続けており、これらを背景として、1979年以降、現在の「いいだ人形劇フェスタ」に繋がる日本最大の人形劇の祭典を開催するなど「人形劇のまち」として定着している。

いいだ人形劇センターでは、県内全域で「人形劇のまち飯田」が培ってきた文化に親しみを持ってもらうために、令和4(2022)年度から人形作りの出張ワークショップを開催している。令和5(2023)年度は飯山市、佐久市、松川村、松本市、下條村へ出向き、ハンドパペットやロリポップパペットなどの人形作り体験を実施した。これまで未実施だった東信地域・佐久市コスモホールでの初開催したワークショップも早期に予約定員となり好評を得た。目標としていた県下4地域ワークショップを達成した。

また、出張ワークショップを継続的に実施することを目指して、本年度は販売促進用のリーフレットも制作した。「発泡スチロール球でつくるハンドパペット」や「はばたくマリオネット」など、8種類の人形作りワークショップを紹介。人形作りワークショップを導入したい団体に向けて積極的にアピールしていく。

令和6(2024)年度は、県外での出張ワークショップも視野に入れ活動を展開する予定。飯田市の人形劇文化の持続的な発展と普及に向けた、いいだ人形劇センターの今後の取組に期待したい。

団体所在地 | 飯田市 MAP A05

団体概要

「市民文化と人形劇文化および、飯田地域全体の活性化に寄与すること」を目的に2013年に設立。人形劇の定期公演や人形劇にまつわるワークショップを開催している。

活動内容

ハンドパペットをつくろう
 活動場所 | 飯田文化会館
 信毎メディアガーデン
 松川村図書館
 活動日時 | 5/28・6/4・9/15・9/26

うごいてたのしいどうぶつ人形をつくろう
 活動場所 | 下條村図書館
 活動日時 | 9/23

ロリポップパペットをつくって遊ぼう
 活動場所 | 飯山市子ども館きらら
 活動日時 | 10/7

張り子でお面をつくろう
 活動場所 | 飯田文化会館・飯田市公民館
 活動日時 | 11/18・19・25・26

モンスターパペットをつくってあそぼう
 活動場所 | 佐久市コスモホール
 活動日時 | 1/14

わかりやすく話し、伝えるための基礎講座
 活動場所 | 川本喜八郎人形美術館
 活動日時 | 2024/1/20・2/10

コーディネーターより

佐久市コスモホールでの講座は、信州ACによる紹介が出发点となり企画が実現した。「キッズサーキットin佐久」など子ども向けの活動が盛んな地域であることから、今後の継続が期待される。(藤澤智徳)

特定非営利活動法人 F.O.P
 Music Art Forest 奏の森 Project



1 奏の森で『米米米ソング』ライブパフォーマンス
 2 『米米米ソング』の仲間たち
 3 歌詞をみんなで考えました(『米米米ソング』の曲作り)

森を再生し循環型の暮らしを創るアート拠点に

2018年から、中川村で獣害などの問題が多発していた荒廃森林を整備し、森の間伐材、伐期が来ていた木々などを使い、ステージや小屋などを自分たちで建て、新たな里山の広場「奏の森」として活用。環境活動・循環型の暮らし体験・音楽アート制作・自然野外保育・子供の居場所づくりなど、親子や異世代、移住者と地域の人たちなどの交流の場を作ってきた。加えて、社会で生きづらさを抱えている人たちが、奏の森に来てその暮らしを体験し、表現活動を行うなかで、いきいきと心を取り戻し始める。その様子を見て、森や田畑での環境活動と芸術文化の融合に可能性を感じ、今年度、奏の森に集う人たちがお米づくりを体験し、その体験から歌やパフォーマンスを創り発表する、というプログラムを行った。

奏の森を拠点としているバンド「カナデル幸響楽団」が、表現ワークショップの講師となり、春から秋までの体験をもとに、参加者とのワークショップを通して、『米米米ソング』の歌詞や音楽、振付をつくり、奏の森の「収穫音楽祭」で発表した。このプロセスを経験した人たちから、続けてレッスンを受けてほしいという声があがり、奏の森で、踊りや楽器演奏を学ぶ人たちの活動が継続している。

カナデル幸響楽団は、2023年結成。森や農業、虫、自然との関わりを通して生まれてくる言葉、自然との関わりや循環型の暮らしの世界観を描く曲を演奏している。今年度の取組では、カナデル幸響楽団がこれまでの作った曲をCDにする音源制作を進めるとともに、荒れた森を切り開き小屋・建物を建てる過程の映像資料を取りまとめた。今後、各地で上映会やライブ公演を行い、伊那谷での活動を伝える取組へと繋げていく構想である。

団体所在地 | 中川村 MAP A06

団体概要

伊那谷の自然環境文化を次世代に継承する活動15年。環境活動と音楽芸術を融合し、体験WS、作品制作、フェスなど、森と人との関係を結び、循環型の暮らしや感じる・問う・表現すること「生きる力」を育む活動展開中。

活動内容

お米づくり体験
 活動日時 | 5/21-10/25

お米づくり体験から感じたことを表現するワークショップ
 活動日時 | 10/7

収穫音楽祭にて「米米米ソング」(ベイバーマイソング)
 活動日時 | 11/12

- ・音源制作
8/7-10/20
ミキシング音源データ作成
- ・映像制作
映像、写真のデータ作成、整理

コーディネーターより

助成相談会でお話を聞いても半分半信で、実際に足を運んでびっくりした。アートと環境活動、地域の循環的な暮らしがこころに自然に編めるものなのか! 気になる方は奏の森を訪れてみてください。(野村政之)

おやこのカラダ
 07
 にちカラ 夏休み特別企画
 「子どもとアーティストの でっこぼっこ劇場(シアター)2023」



1 小学生が音の開発者になり音・絵・言葉・歌やリズムに変換しパフォーマンスを創作発表
 2 秋 あがたの森で夏に創作したパフォーマンスを練り直して再演
 3 冬 アーティスト スパン子さんコンサートにてパフォーマンス

夏・秋・冬 でっこぼっこ劇場(シアター)

昨年度から引き続き、夏休みの4日間に松本市四賀にあるヴィオ・パーク劇場に小学生16名、アーティスト含む大人7名が集まった。ファシリテーターである分藤香さん、矢萩美里さん、アーティストの前田斜めさん、スパン子さん、さらに小学校教員や保育士3名がサポート役で参加。子どもの発想や創作から体調ケアまでを意識したチーム体制を整えた。

今回は『音の開発者』をテーマに身の回りにある音やモチーフをきっかけに様々なワークショップを重ねながらストーリー・音楽・美術・衣装を創作し最終日にパフォーマンスを披露した。

さらに、秋編は場所をあがたの森公園に移し、夏に創作したパフォーマンスをブラッシュアップ。クラフトピクニックが開催されている公園内芝生でゲリラパフォーマンスを行った。イベント参加者にとっての偶然の出会いになっただけでなく、子どもたちにとってこれまでと違う上演形態だったことで、観客に“見せる”ことにより意識を向けるような、取り組み方の変化が生まれた。

最後は冬編。スパン子さんのライブ『SPANKOSMOライブ「星ふるみち3」』第2部に出演するため、スパン子さんの楽曲に合わせて新たなパフォーマンスを創作。子どもたちからは、夏から冬を通して創作し楽しく表現するだけでなく、クオリティに挑戦する姿もみられた。

子どもは自分の思いを伝え、他者を受け入れ、パフォーマンスのなかで相手を感じ合っただけでなく、全員と大切な瞬間を共有するなかで信頼関係が育まれ成長につながっていた。また、大人が子どもをバックアップするだけでなく本気の姿勢を見せることで、子どもの心を揺さぶり、創作・表現を促す原動力になっていた。

団体所在地 | 松本市 MAP A07

団体概要

子どもや親子対象の体遊びワークショップを実施。子どもたちの自由な発想を大切に、普段とは違う体の動かし方や遊び方を発見できる場を創っている。ワークショップでは、ダンス、音楽、演劇、美術など多様なアーティストとも積極的にコラボレートしている。

活動内容

夏のワークショップ・発表

活動場所 | ヴィオ・パーク劇場
 活動日時 | ワークショップ:7/27-30
 発表:7/30 16:00-16:30

『でっこぼっこ秋、冬編のお話作り』

活動場所 | あがたの森文化会館
 活動日時 | 9/30 9:00-12:00

『でっこぼっこ秋編』

動きと語りの練習
 活動場所 | あがたの森文化会館
 活動日時 | 10/8

ゲリラパフォーマンス

活動場所 | あがたの森公園芝生
 活動日時 | 10/14 13:30-13:40

『でっこぼっこ冬~音楽編~』

活動場所 | 松本市内公民館
 活動日時 | 練習日:12/10・12/17
 スパン子さんピアノコンサート内パフォーマンス @すずの音ホール(松川村):12/23

コーディネーターより

夏・秋・冬と回を重ねるたびにパフォーマンスがブラッシュアップされたことに驚いただけでなく、冬編のステージ上に表現者として佇む子どもたちの目がとても強く忘れられない体験になった。(佐久間圭子)

劇団野らぼう
 08
 ゼロカーボン演劇・限られた電力編
 ~太陽光発電とモバイルバッテリーを使った上演の形態を思考します~



1 第7回公演『ロレンスの雲』上演中の様子 / 2 客席の灯りも太陽光発電の電気のみで賄う / 3 上演は、モバイルバッテリーへの充電がたまり次第の実施となる

団体所在地 | 松本市 MAP A08

団体概要

2018年に松本市で設立した野外劇団。あがたの森公園をホームに全国各地で上演を重ねている。巨大人形を用いた人形劇から流し芝居、ゼロカーボン演劇まで、自由な発想で独自の世界を作り出している。

活動内容

劇団野らぼう第7回公演『ロレンスの雲』

松本公演
 活動場所 | あがたの森公園
 活動日時 | 4/1・4・9・12・15・18・21・24・29

東京公演(助成対象外)

活動場所 | 調布市せんがわ劇場
 活動日時 | 5/21

上田公演

活動場所 | 犀の角
 活動日時 | 5/27
 ※終演後「ゼロカーボン茶話会」開催

福島・西会津公演(助成対象外)

活動場所 | 西会津国際芸術村
 活動日時 | 6/4

コーディネーターより

太陽光発電のみで上演を行うという挑戦的な試み。アートと環境、それぞれの自明性をユニークな手法で問い直す画期的な取組となった。(藤澤智徳)

太陽と雲とともにある演劇

劇団野らぼうでは、近年「ゼロカーボン演劇」と名付けた環境配慮型の演劇創作活動に取り組んでおり、照明や音響など、演劇の上演時に必要となる電力を、自前の太陽光発電で充電された電力のみでまかなっている。

令和5(2023)年4月にあがたの森公園で行った演劇公演『ロレンスの雲』では、稽古場の屋根に設置したソーラーパネルで発電し、モバイルバッテリーの充電量が100%になったら上演を敢行する、というユニークなスタイルをとった。つまり、充電量は天候によって左右されるため、公演期間中、観客も、メンバーも、次にいつ公演があるのか確定しない状態に置かれる。また、上演の最中でも、終演を迎える前に充電が底をつき、暗闇の中で俳優が手回しの懐中電灯で演じ続けるという事態がしばしば発生する。このような天候次第、不確実な環境下での公演を、劇作・演出の前田斜めさんは「太陽と雲も劇団員」という言葉で表現している。

劇団員同士が話し合っただけでなく、5月に東京都調布市で行われた「第13回せんがわ劇場演劇コンクール」でグランプリを受賞。さらに、長野県「信州SDGsアワード2023」において、SDGs達成に資する企業・団体の優れた取組として表彰された。信州から新しい芸術表現のかたちを発信していく可能性を秘めている。

坂城町を音楽で満たす会 さかきびんぐし音楽会 ～音楽で町民をつなぐプロジェクト～



1 「さかきびんぐし音楽会 vol.01」(中心市街地コミュニティセンター)
2 「さかきびんぐし音楽会 vol.04」(びんぐし湯さん館 大広間)
3 「さかきびんぐし音楽会 vol.03」(びんぐし湯さん館 大広間)

団体所在地 | 坂城町 MAP A09

団体概要

坂城町の住民が気軽に音楽に触れ、親しむことができる機会を提供することを目的に2023年に設立。町内のコミュニティセンターや温泉施設、レストランなど様々な場所でのコンサートを企画、実施している。

活動内容

さかきびんぐし音楽会 vol.01

出演 | TrioPassion(曾根たえこ/ソプラノ、高木夏子/トロンボーン、内奈々子/ピアノ)
活動場所 | 中心市街地コミュニティセンター
活動日時 | 8/19

さかきびんぐし音楽会 vol.02

出演 | 米澤愛子/ピアノ、相澤洋正/作曲・ピアノ
活動場所 | 中心市街地コミュニティセンター
活動日時 | 11/5

さかきびんぐし音楽会 vol.03

出演 | 米澤愛子/ピアノ、高木夏子/トロンボーン
活動場所 | びんぐし湯さん館 大広間
活動日時 | 2024/1/27

さかきびんぐし音楽会 vol.04

出演 | 米澤愛子/ピアノ、一本鎗有咲/フルート
活動場所 | びんぐし湯さん館 大広間
活動日時 | 2024/2/10

コーディネーターより

小学校併設の音楽堂の活用に向けて自治体と対話を重ねるとともに、町内他施設でコンサートを重ね、機運醸成を図るなど、堅実に歩みを進めることができた。(藤澤智徳)

坂城町を「音楽の街」へ!

坂城町を音楽で満たす会は、坂城町でピアノ教室を営む米澤愛子さんが代表となり、2023年に立ち上げ、活動を行っている。町内への一層の音楽文化の普及を目指し、さまざまな場所でコンサートを実施している。

本年度は、坂城町立南条小学校に併設されている音楽堂を有効に活用するための機運醸成を図るべく、「さかきびんぐし音楽会」を計4回開催した。演奏者には、上田市在住のトロンボーン奏者で会の立ち上げメンバーである高木夏子さんや、長野県内、特に東信地域にゆかりのあるアーティストを多く起用。会場として、坂城町の中心市街地のコミュニティセンターや日帰り温泉施設を使用し、市民が身近に音楽に親しむことができる環境づくりを目指して事業を行った。温泉施設でのコンサートは、普段コンサートに足を運ぶことの少ない親子連れなども鑑賞しやすく、音楽で満たす会として観客の間口を大きく広げることができただけでなく、施設側から定例化したいとの声が寄せられた。

南条小学校の音楽堂の活用については、こうした機運醸成活動と並行して町長や行政との対話を重ねている。現在の規定上、入場料が徴収できないことが利用促進の課題となっているが、会員制を導入したコンサートの実施なども検討されており、少しずつ歩みを進めている。

コロナ禍の影響を受けて継承の危機にある坂城町内の獅子舞についての調査も開始した。クラシック音楽だけでなく、坂城町にすでにあるさまざまな音楽文化の普及・継承を目標に、精力的に活動する坂城町を音楽で満たす会のような担い手は、地域にとって貴重な存在である。支援者の輪が広がっていくことを期待したい。

特定非営利活動法人 サポートC 「みつばちプロジェクト」 ～あーとが届かない子どもたちのところにあちこちまわってあーとをお届けします～



1 岡谷で子ども食堂を真剣に考える会「だるま食堂」での劇団「ねこじゃらし」人形劇
2 桂咲之輔 上方落語の様子

団体所在地 | 茅野市 MAP A10

団体概要

2006年設立、茅野市民館と協働し、茅野市民館とその利用者のサポートを行っている。文化活動や市民の交流を通じて、地域の文化度を高め、心豊かなまちづくりに貢献することを目指し、活動している。

活動内容

- 岡谷で子ども食堂を真剣に考える会「だるま食堂」
7/16 劇団「ねこじゃらし」人形劇
11/26 桂咲之輔 上方落語
12/17 工作 クリスマスラップ作り
丸茂和香 バイオリン演奏
2/18 ほっしー パントマイム
- 茅野市米沢地区こども館「のびっこ広場」
7/25 「感じたままに野菜を作ろう」
芸術療法士 西川直子 工作
11/22 柏木陽 演劇ワークショップ
- この街きつず「ふ〜もん」
8/9・10/20 おでかけ隊 演劇
- この街支援センター
8/10 ふーちゃんとあそぼう 音楽遊び
- 子ども食堂「コミュ・きっちん天香」かんでんぐら
9/14 柳平淳哉 ピアノ演奏、根本理恵 バイオリン演奏
10/12 たまごプリン 管楽器パフォーマンス
- 児童養護施設「つつじヶ丘学園」
9/16 たもん ジャグリング
- 子どもアート食堂(アトリエもも) 10/21 ほっしー パントマイム
- 子どもカフェ「カランコエ」 10/22 たもん ジャグリング
- 休日子育てシェアハウス「山の家」 11/18 ほっしー パントマイム
- テラコヤ泉長寺子ども食堂 11/25 桂咲之輔 上方落語
- 茅野市金沢小学校学童クラブ 12/13 劇団「ねこじゃらし」人形劇

コーディネーターより

より多様な子どもたちの居場所に様々なジャンルのパフォーマンスをお届けした。どの会場でも子どもたちのやりたいことを細やかに受け止めて内容調整する姿に感銘を受けた。持続可能な方策に期待。(伊藤羊子)

より多様な“子どもの居場所”に文化芸術を届ける

「みつばちプロジェクト」は、文化芸術に触れる機会が少ない子どもたちに「あーとをお届け」することを目指して、令和4(2022)年度にスタート。音楽やパントマイム、演劇、ジャグリングパフォーマンスのほか、今年はプロの落語家を加え、諏訪圏域の子ども食堂やフリースクール、地区こども館、児童養護施設、障がいのある子どもたちの学童保育等での出張公演を行った。

毎回プレゼントするオリジナル缶バッジは、地元の富士見高校養蜂部の生徒がデザインした。昨年度とデザインが違うことに気づく子もいて好評だった。富士見高生もプロジェクトに興味を持ってきているため、出張公演への参加に繋げていくことを計画中。

令和5(2023)年度は来て欲しいと要望のあった場所に絞り、その居場所の子どもの特性や、子どもたちの文化芸術への興味の持ち方の違いを考慮したものを届けることができ、子どもたちや大人にも楽しんでもらえたと実感している。なかには複数の居場所を利用する子もいて、「みつばちプロジェクト知ってる。」「(以前違う場所で観た)おでかけ隊が見たい。」など馴染を持ってもらえるようになり、アートに触れることを楽しみにしてくれていると感じていると、サポートC理事で「おでかけ隊」でもある五味三恵さんは言う。

コロナ禍があげ、家庭環境によって子どもたちが文化芸術事業に触れる機会の格差がより顕著になりつつある。会場となる居場所の運営スタッフや演者たちも、子どもたちの楽しむ姿にアートを体験する機会の必要性を感じ、今後への期待を持ってきているという。

演者と居場所のつながりが増している。点と点との関わりを面にして広がっていくことを目指したい。

振動興業
いりまじる、残像
—北信地域の高齢者から始まる表現活動の試み—



1 講師の鈴木彩華さんとWS参加者の方々
2 柳原交流センターでの創作練習の様子
3 なからビレッジ(須坂市)での映像上映会の様子

高齢者と若手クリエイターの協働創作

子ども、高齢者、障がい者など幅広い層の人々を対象にした「コミュニティダンス」と呼ばれる身体表現活動の手法をロンドンで学んだ鈴木彩華さんが、北信地域の高齢者5名をダンサーに迎え、ダンス作品を制作、発表を行った。今回の取組は、鈴木さんが過去に須坂市でシニアのダンスクラスを受け持った経験がもとになっており、普段の生活では出会わなかった高齢者同士が関わりあい、対話や交流が生まれるようなプログラムを、振動興業代表でサウンドアーティストの中島水さんなど若手のアーティスト、クリエイターと協働し、多世代の関わりあいとして実施した点に特徴がある。

6月から月2回程のペースで長野市内の公民館に集まりリハーサルを実施。「山水と思い出」をテーマに、ダンサーの皆さんが振付を考えたり、音楽家の山下恵理子さんの生演奏にあわせて即興的に踊ってみたりなど、アーティストと高齢者が双方向にやりとりをしながらワークショップを重ねた。9月まで、9回のリハーサルを通して短編のパフォーマンスを創作、その成果を長野市のセントラルスクウェアの野外ステージで発表した。

加えて、リハーサルから本番までの過程を撮影、編集し、映像作品として長野市のシーシャ場 円-en-、須坂市の満龍寺、なからビレッジと複数の会場をめぐるながら上映した。満龍寺での上映会では、実際に出演した高齢者の方々や、ダンスや映像作品の制作に携わったスタッフが集い、一般来場者の方々も参加し、広く感想を共有する時間となった。

高齢化が進み、誰もが安心して健康に暮らせる社会が望まれる中で、コミュニティダンスを通じて多世代が関わりあう機会が、今後も広がっていくことを期待したい。

団体所在地 | 須坂市 MAP A11

団体概要

海外生活や専門芸術分野に留まらない多彩な経験をもつクリエイターが集まり2017年に設立。須坂市の古刹・満龍寺を活動拠点に、禅や神道などの日本の精神文化を核とした音楽・舞踊・絵画・空間演出などを手がける。

活動内容

創作練習

活動場所 | 柳原交流センター(長野市)
活動日時 | 6/16・30・7/14・28・8/11・25・26・9/1

舞台練習

活動場所 | ながの表参道セントラルスクエア(長野市)
活動日時 | 9/1

本番

活動場所 | ながの表参道セントラルスクエア(長野市)
活動日時 | 9/2

映像展示

活動場所 | シーシャ場 円-en-(長野市)
活動日時 | 2024/1/28-2/10

映像上映

活動場所 | 満龍寺(須坂市)
活動日時 | 2024/2/18

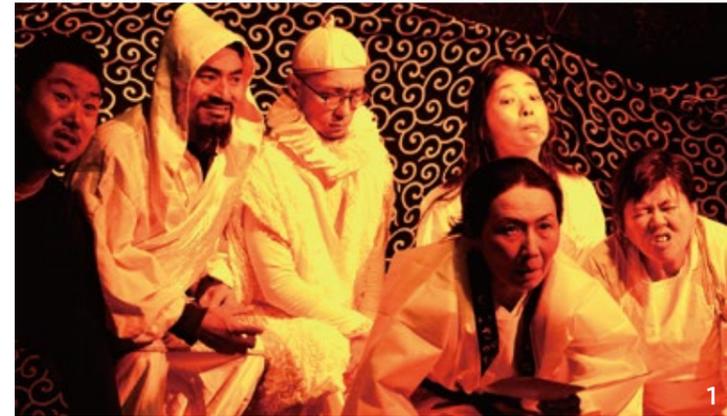
映像上映・トークイベント

活動場所 | なからビレッジ(須坂市)
活動日時 | 2024/2/25

コーディネーターより

高齢者と若手クリエイターとの共同創作や、そのプロセスを追った映像作品の上映会の実施など、単なるダンス公演の枠組みに収まらない盛り込み事業となった。(藤澤智徳)

ちいさがた未来民話研究会
環境変化と民話
～災害・気候変動を民話で学び、表現し、伝えるプロジェクト～



1 創作音楽劇「鳴動～音が伝える災害の警鐘」上演の様子/2アフタートークでは、長野県立歴史館特別館長の笹本正治さんも登壇/3 実際に民話が伝わる地域にも足を運びリサーチ

団体所在地 | 上田市 MAP A12

団体概要

2023年設立。信州の各地域に伝わる民話や伝承を、演劇・朗読・ダンス・パフォーマンス・映像・イラスト等で表現。一般の方々に楽しく、わかりやすく伝える作品づくりを目的とした活動を行っている。

活動内容

民話実地調査

活動場所 | 木曾郡大桑村、南木曾町
活動日時 | 7/23

民話実地調査

活動場所 | 松本平と南木曾川周辺地域
活動日時 | 8/31・9/1

表現を学ぶワークショップ

出演 | 姫凜子、大隅健司、仲田恭子
活動場所 | カフェ・グランビア(上田市)
活動日時 | 9/30・10/21・22

「鳴動～音が伝える災害の警鐘」

出演 | 姫凜子、大隅健司、葛目絢一、ワークショップ参加者有志
演出 | 仲田恭子
活動場所 | ヴィオ・パーク劇場(松本市)
活動日時 | 10/29

コーディネーターより

民話が伝わる土地を訪ねるなど丁寧なリサーチを行いつつも、創作については即興音楽やボイスパフォーマンスを取り入れるなど大胆な表現が多く、誰もが楽しめる作品となっていた。(藤澤智徳)

過去の言葉に耳を傾け、未来へつなぐ

ちいさがた未来民話研究会は、災害や気候変動に関わる民話を収集し、それらを演劇・朗読・音楽などを用い、新たな表現として語り直す活動を行っている。令和5(2023)年度は、創作民話劇『鳴動～音が伝える災害の警鐘～』を制作し、10月にヴィオ・パーク劇場(松本市)にて上演した。

まずちいさがた未来民話研究会のメンバーは、長野県内の自然災害に関わる民話が伝えられる地域に赴き、描かれている場所や自然環境を実際に訪ねた。例えば木曾地域には「蛇抜(じゃぬ)け」という言葉が伝わっており、「土石流」を意味している。これにちなんで民話に関わる場所として、江戸時代に起きた土石流災害の殉難者を弔う石地蔵などを視察した。

10月には出演者の公募を兼ねたワークショップを開催。音楽家の大隅健司さんが講師を務めた回では、民話のテキストを読みながら、「激しい雨」や「土砂崩れ」などの音のイメージを、楽器や身近な小物を使って鳴らしてみる創作を行った。その後、リハーサルを重ね、いくつかの民話を元にしたパフォーマンスを10月29日に上演した。タイトルの『鳴動』は、「この世」に「向こう側」から伝わってくる「兆し」という意味をもっている。民話中に出てくる様々な音を、即興演奏や倍音音楽で表すとともに、ホーメイやヴォイスパフォーマンスなど多様な手法を用い、現代の表現として刺激的な上演となった。

将来的には、現在の気候変動による農作物の不作や降雪の減少などの経験と記憶を現代の民話として捉え、未来へ語り継がれていく創作民話劇として上演することを目標としている。過去と未来を繋ぎ新たな表現を生み出すちいさがた未来民話研究会のこれからの活動に注目したい。

13

一般社団法人ツキカラカエル New Ear - 「嘸」から「耳新」へ。 残すべき物語(民話・神話)を多くの「ひとり」に。



1 「New Ear - 観る、と、聴く、と、その間。」本番の様子
2 字幕や手話通訳を織り交ぜながらの上演・トークとなった
3 富士見駅前の空き店舗を掃除し、会場として使用

情報保障があるからこそ見えてくる“違い”

富士見町・八ヶ岳エリアに移住した方たちを中心に設立されたツキカラカエルは、アートを通じた地域コミュニティの持続的な発展を目的に、2022年の設立より演劇公演や怪談イベント、月例短歌会など、さまざまな文化事業を精力的に行っている。

本年度は、将来、聴覚障がい者の方と協働した創作を行うことを念頭に、当事者の方との交流や鑑賞機会の創出を目的とした活動を展開した。富士見町の手話サークルにメンバーが通って手話を習ったり、当事者目線に沿う形で企画作りを進めていったほか、長野県聴覚障がい者情報センターや富士見町社会福祉協議会とも連携をするなど、地域の枠組みを超えた協力関係の構築を図った。

これらの関係づくりを踏まえ、2月に本公演『NEW EAR-観る、と、聴く、と、その間。』を開催。この公演では、富士見駅前の元靴屋の空き店舗を改装し、ノンバーバルパフォーマンス【身体表現】、手話落語【手話】、落語【口語伝承】という3組の異なる表現者による上演を行った。それぞれの上演にあたっては、AIによる発話内容の即時文章化(テロップ)や手話通訳などの情報保障を試行した。同じ表現を見て、聴覚障がい者の方と一般の観客の方が同様に笑う場面もあれば、手話落語では、手話を日常使っている方だけが笑う時もあった。手話を解さない人にとって、ともに表現に親しむ環境だからこそ、体感することができる“違い”である。こうした混ざりあう状況を通して多様な人が集うコミュニティの可能性を感じることができた。

また終演後のトークセッションでは、今回の事業がそれぞれにとって普段ない経験になり、自身の表現やそれを人々に伝える意味について見つめ直す機会になったことが伺えた。

団体所在地 | 富士見町 MAP A13

団体概要

富士見町を中心とした八ヶ岳地域を主たる活動拠点に2022年設立。地域で活動する芸術家や世界中のアーティストと地域コミュニティを繋ぎ、八ヶ岳の美しい自然を活かした文化事業を展開している。

活動内容

富士見町手話会への参加開始

活動日時 | 4月-6月

手話を含む身体表現

活動場所 | 野外保育森のいえ“ぼっち”(富士見町)

活動日時 | 4月-6月

本番会場の掃除、片付け、設営準備

活動日時 | 12月-1月

「New Ear -観る、と、聴く、と、その間。」本番

出演 | ハブシカブシカ、古今亭文菊、

高井家のろま

活動場所 | 元キリン堂(富士見町)

活動日時 | 2024/2/3

コーディネーターより

団体のメンバーが手話サークルに通って手話を習うなど、聴覚障がいのある当事者と時間をかけて丁寧に交流する中で、企画をブラッシュアップさせていった。(藤澤智徳)

14

Torus Vil. MIKUSA PROJECT 2023



1 阿南町・和合の念仏踊り稽古へ参加
2 和合小学校で地区の皆さんにライブパフォーマンスを披露した
3 県内外から郷土芸能に携わる方を招きトークイベントを開催

地元・和合でのパフォーマンス

音楽家・佐藤公哉さん率いるTorus Vil.ではこれまで全国各地の郷土芸能や伝承歌を取材。そこから身体の使い方やリズム、発声などから新たな音楽やダンスを創作する「MIKUSA PROJECT」に取り組んでいる。

令和4(2022)年度の取組では南信州・阿南町和合地区で伝承されている「和合の念仏踊り」の稽古に、ミュージシャン・ダンサーとともに参加し、そこから新たな楽曲、パフォーマンスを創作・上演した。令和5年度もリサーチを続け11月には和合小学校体育館で公演を開催。和合の念仏踊りを元にしたパフォーマンスを地元の皆さんに初めて披露するとともに、他地域で取材・創作をした楽曲も披露した。和合にちなんだ楽曲とクオリティの高い演奏は参加者の心を掴み、喝采を得た。

MIKUSA MEETING

一郷土芸能とクリエイション/わたしたちが手繰る温故知新のかたち

1月には松本中心市街初開催となるライブパフォーマンス、ワークショップ、トークからなるイベントを開催した。ライブの終盤では、ワークショップ参加者がMIKUSA BANDと共演。トークセッションでは、全国の祭り・芸能に足を運ぶ文筆家大石始さん、全日本郷土芸能協会常務理事で自身も鹿踊の伝承者である小岩秀太郎さん、まつり芸能集団「田楽座」代表中山洋介さん、松本市在住のコンテンポラリーダンサー二瓶野枝さん、それぞれ異なる立場から郷土芸能に関わるゲストが音楽表現や身体技法、伝統の価値、社会との関係、継承の課題などさまざまな話題について、佐藤公哉さんと語り深める時間となった。MIKUSA PROJECTの取組に対しても高評をいただき、今後の広がりに一層期待が高まる。

団体所在地 | 松本市 MAP A14

団体概要

音楽家・佐藤公哉が発足したプロジェクト/ネットワーク組織。伝統的な文化・芸術のリサーチを行いながら、現代に必要とされる文化のエッジを生み出すことを目指す。音楽を中心にダンスや美術なども合わせ公演、ワークショップなどの企画・開催を行う。

活動内容

和合の念仏踊り稽古参加

活動日時 | 8/8(火)

和合小学校公演

活動場所 | 阿南町立和合小学校

活動日時 | 11/24(金)

「MIKUSA MEETING

一郷土芸能とクリエイション/
わたしたちが手繰る温故知新のかたち

出演 | KIMIYA SATO MIKUSA BAND

佐藤公哉、権頭真由、荒井康太

水谷浩章、辻村豪文、KUDO AIKO

ダンス: 鈴木彩華、

ワークショップ参加者の皆さん

トークセッション登壇 | 大石始、小岩秀太郎

中山洋介、二瓶野枝、佐藤公哉

活動場所 | 信毎メディアガーデン

活動日時 | 2024/1/8(祝・月)

コーディネーターより

MIKUSA BANDから繰り出される上質なパフォーマンスで惹きつけられるだけでなく、血に刻み込まれた何かから興奮させられる感覚があった。今後の広がりに期待。

(佐久間圭子)

15

どんどろ流 百鬼ゆめひな 伊那谷化けるんです。



1 人形を作って、動かしてみよう」ワークショップの様子
2 演劇祭の2日目はアーティストによる連続ワークショップを開催
3 町内の合宿研修施設を劇場に仕立て上げ公演を行った

伝説の「一人劇祭」が約30年ぶりに復活！

伝説的な人形師「百鬼どんどろ」岡本芳一の弟子であり、飯島町を拠点に人形師として活動しているどんどろ流百鬼ゆめひな・飯田美千香さんが、90年代に師匠が企画した国際舞台芸術祭「アジア一人劇祭」を、新たな形で復活させた。

「伊那谷化けるんです。」と名付けられた本事業は、11月初旬の3日間開催。1日目は、舞踊家、舞台芸術家、ダンサーなど4人のソロパフォーマーが、それぞれの持ち味を出しバラエティに富んだステージを展開。2日目、3日目は、それぞれの出演者によるワークショップを行った。

演劇祭の復活にあたって飯田さんが重視したのが地域社会・コミュニティとの連携だ。開催にあたり飯島町内外の企業から協賛を募ったほか、会場設営やテクニカルワークにおいては地域のNPOやイベント制作会社の協力を得た。かつての「アジア一人劇祭」に携わった地域の方がスタッフとして参加するなど、地域全体で演劇祭を支える体制づくりに力を注いだ。

もう1つ重視したのが、「一人劇」文化の伝承。「一人劇」は百鬼どんどろが創出した人形演劇の上演スタイルだが、「アジア一人劇祭」を開催した飯島町では、ソロパフォーマーの総称としても認知されている。先代が創始し、地域で育んできたこの文化を次代につなげるために、各パフォーマーによるワークショップを開催した。見て楽しむだけでなく、参加者自身が表現に取り組む入口をつくり、担い手の裾野を広げていこうとするものだ。

団体所在地 | 飯島町 MAP A15

団体概要

人形師・百鬼ゆめひなが中心となり設立。「ひとがた」と呼ばれる等身大人形を用いた「一人劇」の独自のスタイルでの公演や、奉納演舞や古典芸能とのコラボほかジャンルに囚われない活動を積極的に行っている。

活動内容

「伊那谷化けるんです」

1日目 ソロパフォーマーによる公演

出演 | 加藤木朗(舞台芸術家)、
蜜月稀葵(舞踊家)、u-ichi(ダンサー)
百鬼ゆめひな(人形師)

活動場所 | アグリネーチャーいいじま(飯島町)
活動日時 | 11/3

2日目 ワークショップ「みんなで化けるんです。」

①太鼓と踊る～「祇園」

講師 | 加藤木朗

②脱力軸

講師 | 蜜月稀葵

③「ダンサー・パフォーマーになる為の心構え」

講師 | u-ichi

活動場所 | アグリネーチャーいいじま(飯島町)

活動日時 | 11/4

3日目 「人形を作って、動かしてみよう」

講師 | 百鬼ゆめひな

活動場所 | アグリネーチャーいいじま(飯島町)

活動日時 | 11/5

コーディネーターより

いまなお伝説として語り継がれる演劇祭を、当時の形そのままではなく、地域全体で支え合う新たな形で復活させ、発展させようとする姿勢を評価。(藤澤智徳)

16

特定非営利活動法人 ながのアートミーティング こもろのおうち活用事業



1 田んぼの土を使った縄文土器づくりの様子 / 2 漫画家の方を講師に招いたイラスト講座 / 3 閑静な住宅街の中にたたずむ「こもろのおうち」

誰も住んでないけれど、みんなが帰るおうち

小諸市の閑静な住宅街の中に佇む平屋の一軒家。「こもろのおうち」は、普段は誰も住んでいないこの空き家を会場に、生きづらさを抱える子どもや大人をメインの対象に誰でも参加できるワークショップを開く企画だ。

4月16日の第1回目を皮切りに、最終回となる2月18日まで、毎月1回ずつ実施。東信地域のアーティスト・クリエイターを主に講師に招き、田んぼの土を使った器づくりや、木片を彫刻刀でくり抜くスプーンづくりといったものづくりから、足を使った習字体験など一風変わったものまで、多彩なプログラムのワークショップを展開。障がいや生きづらさを抱える人だけでなく、それを支える人、またそうでない人などが気軽に参加し、自分の創作に取り組むことができたほか、参加者やその親同士の交流・情報交換の場ともなるなど、誰もが安心して集うことができる環境となった。

これらの活動は、「こもろのおうち通信」というリーフレットの形で毎月まとめられ、活動の認知のために広く配布されたほか、活動のアーカイブとしても活用された。

2月には、ワークショップの成果展として、参加者が制作してきた作品を集め、佐久市のギャラリーで展示会を開催。講師の作品と参加者の作品と一緒に展示し、作者それぞれの個性が際立ち、また多彩な内容の年間活動が俯瞰できる中身の濃い展示となった。障がいの有無などの分け隔てなく「だれもが参加できる」という活動の姿勢が展示の構成から伝わり、鑑賞者にもヒントを与えるものとなっていた。

来年度は、こもろのおうちでの実施に加え、地域からの要望を受けて、出前でのワークショップも行う予定だ。これからの新たな展開に期待したい。

団体所在地 | 長野市 MAP A16

団体概要

2011年設立。アート活動を通して障がいがある人に自己表現の場を提供するとともに、アート活動を通じた気づきの中でノーマライゼーション社会の実現や地域社会の再生に寄与することを目的とした活動を行っている。

活動内容

- Neo貼り絵でマイカタログを作ろう!
4/16 講師 | エムラヤスコ(デザイナー)
- 新種発見!! 自分だけのいきものをつくろう!
5/28 講師 | 石川奈緒美(彫刻家)
- 超絶句技法!? みんなで摺ろう足ふみ版画
6/25 講師 | 田嶋健(版画家)
- 田んぼの土で原始人ごっこ! 縄文に挑戦!
7/30 講師 | 角りわ子(陶芸家)
- 漫画イラストで なんでもキャラ計画!
8/20 講師 | CHIHIRO(漫画家)
- かさねがさねミルフィーユレイヤーで好きな絵
9/17 講師 | ハナサトミツキ
- お木にいりのスプーンをつくろう!
10/22 講師 | 出光晋(木工家)
- お木にいりの筆で墨遊び+
お木にいりのスプーンをつくろう! パート2
11/26 講師 | 関孝之(ながのアートミーティング)
出光晋(木工家)
- 着古してなお、お気に入り!
羊毛フェルトで針仕事
12/17 講師 | 鮎川理恵
- こもろのうちが大変身!
ふすまに絵を描いちゃおう!
2024/1/28 講師 | 森泉智哉
- 作品を観ながらおしゃべりしましょう
2024/2/18
- こもろのおうち かびら かびら作品展
2024/2/18-24 場所 | 元麻布ギャラリー佐久平

コーディネーターより

生きづらさを感じる子どもや大人だけでなく、どんな人でも居ることができ、ものづくりや創作に集中して取り組める場が生まれていた。(藤澤智徳)

人形芝居燕組
人形劇美術を实践を通して学ぶ育成プログラム



1



2

1 『タマゴサーカス』試演会
2 新作『タマゴサーカス』の人形、道具づくり

団体所在地 | 松本市 MAP A17

団体概要

人形芝居燕屋のくすのき燕が、2022年に県内の若手俳優と立ち上げた団体。人形劇作品の創作を行い、保育園・幼稚園などでの作品上演を通して、人形劇のアーティスト育成を行っている。

活動内容

地域で活動する文化芸術の担い手を育成するために昨年度の「人形の演技について」の学びに引き続き、今年度は美術について学んだ。

1. 人形劇における美術の考え方を学ぶ
レクチャー
講師 | くすのき燕
2. 参加者が『さんびきのこぶた』の併演作品をつくるという前提で、15-20分程度の小作品のプランを考え、プレゼンテーションを行う
その中から実際に作る作品を選ぶ
講師 | 2回 くすのき燕、吉澤亜由美
3. そのうちの1作品を選び
実際の人形や道具の作成を行う
(2日間×5回)
1~3を美術製作期として
『さんびきのこぶた』の
上演者2名を含む、5名で実施
美術監修 | 吉澤亜由美
4. 『さんびきのこぶた』の上演者(2名)がその美術を使用しての稽古を行う
また稽古で生じた不具合などを調整
演出 | くすのき燕
5. 試演会の実施。ワークショップ参加者も参加
試演会后、演出家、美術監修と参加者による
ディスカッションを実施

コーディネーターより

県内の若手実演家を対象としたプロの人形師育成事業。2年目は美術をテーマに新作の人形や道具を製作。人形劇の演出と美術を体験しながら学ぶ養成課程自体が子どもたちの生の芸術鑑賞機会となる。(伊藤羊子)

子どもに生の芸術鑑賞機会を提供する実演家の育成

松本市を拠点に、国内各地や海外で人形劇の上演活動を行っているくすのき燕さんが、子どもたちを対象とした実演に興味を持つ県内在住の演者とともに人形劇の創作と上演を行いながら、その技や考え方を伝え、プロとして活動できる人材育成を目指し、2年目となる取組。

1年目は人形での演技に関するワークショップを一般向けに開催、その後、井川ちなみさん、成田明加さんの2名がダブルキャストとなり、講師のくすのき燕さんと共演する新作『さんびきのこぶた』を創作し、県内の保育園等で上演した。

2年目の今年度は、『さんびきのこぶた』に併せて上演する15-20分程度の小作品を人形作りから立ち上げた。受講生数名は、人形や小道具制作を人形劇美術家の吉澤亜由美さん(下條村)とともに体験する中で、その工程やスキルを学んだ。次にその人形などを使って、井川さん、成田さんがくすのきさんの演出と先導により稽古を行い、新作『タマゴサーカス』が生まれた。試演会の際にはワークショップ参加者と共にディスカッションを行った。

受講者からは「作品から人形が出来ていく過程は、くすのきさんの講座での「人形劇について演出と美術は不可分」を体感する時間」との感想があった。加えて「人形劇の街の飯田に滞在して制作したことで、いい大人形劇センターや地元の人形劇団、飯田のパフォーマーと密接に関わることが出来、制作以外でもこの街と人形劇が関わりを肌で感じ、交流出来たことも参加した参加者それぞれの刺激や今後の財産になった」と語る。

3年目は『さんびきのこぶた』と『タマゴサーカス』を若手演者のみで上演する稽古を重ねる。小規模な保育園など生の芸術体験の機会が少ない環境にある子どもたちにも、人形劇をとどけていく。

ネイチャーピアノ
ネイチャーピアノ



1



2



3

1 グランドピアノを入笠山山中に持ち込み演奏
2 観客は各々思い思いの椅子を持ち込み好きな場所から聴く
3 オプションとして入笠牧場の散策ツアーも実施

ピアノを媒介に、人と自然をつなぐ

ネイチャーピアノは、伊那市在住のピアニスト・平澤真希さんが中心となり実施している、自然の中にピアノを運び込み演奏するプロジェクトである。2019年10月に山梨県北杜市で初開催、2020年のコロナ禍においては長野県「頑張るアーティスト応援事業」において映像作品を制作し好評を得た。近年では伊那市の他、愛知県東栄町や山梨県山中湖畔など全国各地で行っている。

本年度は7月に、伊那市の入笠山の森、標高1,700mの国有林の中に、特別に許可を得てグランドピアノを持ち込みコンサートを実施した。「ノクターン2番」や「ラ・カンパネラ」などの定番曲から、「ふるさと」などの唱歌、また平澤さんが作曲したオリジナル曲など13曲を演奏。観客は思い思いにコンサートを楽しんだ。コンサートの模様の一部は、映像作品としてオンラインで鑑賞できる。

ネイチャーピアノの目的は、単に自然の中でのコンサートを楽しむだけではなく、ピアノの音を通して、自然の音に耳を澄ますこと、自然の中へと意識を向けることだと平澤さんは語る。コンサート中、多くの人々が、曲と曲のあいだ、あるいはピアノが奏でる音と音のあいだに聞こえてくる、木々のそよめきや、小川のせせらぎにも耳を傾けた。また、希望者は山小屋に宿泊し、星空と平澤さんの生演奏や、朝の森の生き物たちの音を味わうことができた。

気候の変化や災害の激甚化が叫ばれるなか、平澤さんは今後、かつて伊那谷を襲った三六災害をテーマとし、自然災害への警鐘と風化の防止に、ネイチャーピアノコンサートを通じて取り組むことを計画している。アートが持つ想像力を、自然や環境への意識につないでいくネイチャーピアノの展開に注目していきたい。

団体所在地 | 伊那市 MAP A18

団体概要

2019年、ピアニストの平澤真希を中心に設立。ピアノを媒介に、信州伊那谷の自然に耳を傾け、見つめ直すことを目的に、湖畔や山中にアコースティックピアノを持ち出し、体験型コンサートを実施している。

活動内容

「ネイチャーピアノコンサート2023」
ピアノ演奏 | 平澤真希
活動場所 | 入笠山牧場
活動日時 | 7/29

オプション
入笠牧場散策、山の夜咄、月光ピアノ
活動日時 | 7/29

古道法華道・高座岩とテイ沢の散策
活動日時 | 7/30

コーディネーターより

ピアノの音色に耳を傾ける中で、無意識に自然の音が耳に入り、その存在へと思いを馳せる。ピアノが媒介となり自然(ネイチャー)を見つめ直す機会となった。(藤澤智徳)

特定非営利活動法人 ふるさと芸能研究所
伝統文化おやこ体験フェスタ



1 上伊那郡箕輪町に伝わる古田人形のワークショップ
2 総勢50名近い芸能団体の方々が出演と講師を務めた
3 伊那市に隣接する木曾町からは木曾踊保存会の方々も参加

伊那谷・木曾谷の伝統芸能がいなっせに集合!

コロナ禍の影響で失われた伝統文化に触れ体験する機会を取り戻す目的で始まった「伝統文化おやこ体験フェスタ」。伊那市生涯学習センター／ニシザフいなっせホールの複数の場所を使い、子どもたちがワークショップと芸能団体の実演をコンパクトに楽しめる内容の濃いプログラムを提供している。令和4(2022)年度は、田楽座による和太鼓・獅子舞などのワークショップのほか、伊那節や地域の阿波踊りチームによる演舞が披露された。

本年度は、木曾踊(木曾町)、古田人形芝居(箕輪町)、伊那節、羽広獅子舞、田楽座(伊那市)の5つの芸能団体の参加を得た。ワークショップと実演の鑑賞を通して、より一層、子どもたちが伊那谷・木曾谷のさまざまな伝統文化・芸能団体と触れあえるような機会を創出することをねらいとした。出演者を含め100名を超える人が参加した。

終演後は、企画の打ち上げと、地域の芸能団体の親睦を目的に交流会を実施し全団体が参加した。団体の高齢化や芸能の継承など、それぞれの団体が課題を抱える中で、SNSでの発信や、小中学校での部活動における取組など、活動の継続に向けた情報やアイデアを互いに共有する場となった。

本事業では「伝統文化おやこ体験フェスタ」の場を活用して、若い世代にとっての伝統文化の体験機会をつくっていくことと、芸能団体同士の交流・連携のきっかけづくりが並行して行われている。ふるさと芸能研究所が媒介となり、地域住民と芸能団体、そして芸能団体同士が緩やかにつながり、課題に取り組んでいくことができれば、地域にとって大きな力となるだろう。こうした取組がより持続するように、支援する人の輪が更に広がっていくことを願う。

団体所在地 | 伊那市 MAP A19

団体概要

日本の伝統芸能に対する啓発・普及・発展振興を通じた地域づくりを目的に、2017年に設立。全国の学校・地域等での芸能公演や、芸能体験講座、及び指導者養成講習会などの開催を通して、伝統芸能の普及に努めている。

活動内容

「伝統文化おやこ体験フェスタ」プログラム

- えらべるワークショップ
 - 和太鼓
 - 古田人形芝居
 - 伊那節／木曾踊り
 - 南京玉すだれ

- 伝統文化公演
 - 古田人形芝居
 - 羽広獅子舞
 - 田楽座

活動場所 | 伊那市生涯学習センターいなっせ
活動日時 | 2024/1/28

コーディネーターより

獅子舞や人形浄瑠璃など地域の多様な芸能団体が参加。終演後の交流会では、各団体がSNSでの発信について意見を交わす様子も見られ、情報交換や親交を育む場としても機能していた。(藤澤智徳)

文化の場づくりを目標に何かやってみるチーム(ブンカバ)
文化の場づくりを目標に何かやってみる_1年目
(自主上映会部分)



1 夏休み期間中のナイトマーケットに合わせた子ども向けアニメーション映画と、商店街にある画廊のギャラリースペースを活用した単館系作品を上映。昨年縁遠くなりつつある映画館での映画鑑賞を擬似的に体験してもらうことで住民とのイメージ共有を図ただけでなく、ブンカバの活動への理解やニーズの把握にもつながっていた。
2 また、アンケート調査や、地域映画「まつもと日和」上映とあわせ、かつて上諏訪にあった映画館「花松館(かしょうかん)」の元館主親子を招いたトークイベントも開催した。花松館を知る参加者からそこで得た映画体験が次々と語られたなかで、高校時代の映画体験から映写機器のエンジニアとしてキャリアを歩んだ方がいたこともわかり、映画館が人生の中でかけがえのない存在だったことがうかがえた。
3 これら商店街での調査や活動から、空き家・空き店舗利活用の打診がいくつもあったことも積極的にイベント周知や活動をした成果となった。今後は運営に協力するチーム体制が整い文化拠点が実現していくことを期待。

団体所在地 | 諏訪市 MAP A20

団体概要

長野県諏訪市、上諏訪駅前周辺地域に「文化的拠点」があったら望ましいと考える人が、欲しいと感じている文化施設に関わる活動を行います。上諏訪駅前地域に必要であると考えられる形の「文化的活動拠点」をつくることを目的としています。

活動内容

子どもサンセットシアター
@かみすわナイトマーケット
「アイの歌声を聴かせて」

活動場所 | 諏訪市文化センター
活動日時 | 8/19(土)

「上諏訪思い出映画」(調査)

活動場所 | 末広通り歩行者天国
活動日時 | 9/18(月・祝)

トーク&上映会

映画があった諏訪のまち
(地域映画「まつもと日和」上映)

活動場所 | クリオンワークショップ伊久美
活動日時 | 2024/2/10(土)

上映会「aftersun /アフターサン」

活動場所 | 岩谷画廊 3Fギャラリー
活動日時 | 2024/2/17(土)・2/18(日)

コーディネーターより

かつて上諏訪にあった文化を紐解くことで新しい時代に合わせた文化拠点を模索するブンカバのみなさんの取り組み。いったいどこにどのようなニーズがあるのか、模索した先の展開が楽しみ。(佐久間圭子)

上諏訪駅周辺に文化的な拠点を!

数十年前まで映画館や書店などの文化的な店舗が立ち並び、多くの人が行き交っていた「おまち」上諏訪駅周辺。現在は街の再開発が進んだことで車社会に合わせた施設が増え利便性が上がった反面、かつてあった文化を楽しむ場が失われて久しい状況にある。

そんな中、諏訪市主催の官民連携ワークグループにてまちなかに「文化的拠点」が必要だと考えたメンバーが集まり、映画を中心としたイベントを企画・開催して地域のニーズを探りながら、同時並行で拠点となる場を探すべく、空き家見学を実施した。

ターゲットを変えた映画上映会では、夏休み時期のかみすわナイトマーケットに合わせた子ども向けアニメーション映画と、商店街にある画廊のギャラリースペースを活用した単館系作品を上映。昨年縁遠くなりつつある映画館での映画鑑賞を擬似的に体験してもらうことで住民とのイメージ共有を図ただけでなく、ブンカバの活動への理解やニーズの把握にもつながっていた。

また、アンケート調査や、地域映画「まつもと日和」上映とあわせ、かつて上諏訪にあった映画館「花松館(かしょうかん)」の元館主親子を招いたトークイベントも開催した。花松館を知る参加者からそこで得た映画体験が次々と語られたなかで、高校時代の映画体験から映写機器のエンジニアとしてキャリアを歩んだ方がいたこともわかり、映画館が人生の中でかけがえのない存在だったことがうかがえた。

これら商店街での調査や活動から、空き家・空き店舗利活用の打診がいくつもあったことも積極的にイベント周知や活動をした成果となった。今後は運営に協力するチーム体制が整い文化拠点が実現していくことを期待。

障がい者と地域を結ぶオープンアトリエ事業



1 整備したアトリエで粘土造形ワークショップ
2 TIME WARP利用者・ワークショップ参加者とともに野焼き
3 野焼きで生み出された作品が一堂に会した作品展

豊かな個性を引き出すものづくり体験

NPO法人WHITE CANVASは、手厚い支援を必要とする大人のためのものづくりのアトリエ(生活介護事業所)「TIME WARP」を運営。日常的な活動では、それぞれの異なる適性に合わせた素材を使った個性的で豊かな作品制作に取り組んでいる。現状では特別な支援を必要とする方々が社会で力を発揮したり、芸術活動で働く場所の選択肢が少ないことが課題となるなか、「豊かな個性」としての障がいを生かした芸術活動を、社会と関わる方法とし認知向上の目的でこの事業が始まった。年齢属性関係なく楽しむことができる「ものづくり」を通して、コロナ禍で行えなかったアトリエの利用者と地域の関わり、アトリエを開く機会として、粘土造形と野焼きワークショップを行い、野焼き作品展を開催した。

伝える人がつなぐアトリエと地域

立ち会いを重ねる度に印象的だったのは、制作や作業の合間に涼しい古民家の中で休憩をする時間を設け、あわせて施設紹介の時間にしていた点だ。代表の石岡さん、酒井さんがこの事業に関わった全ての人に対してとても丁寧に紹介していた。どういったメンバーがTIME WARPに通い、どんな作品を日々生み出しているのか、メンバーの制作物はどんなところがこだわりポイントで、どうしてこういう作品を作るようになったのか、普段どんなことをするのが好きなのか、など常に施設で過ごしているからこそ本人が語る事が難しいようなことも代弁をして伝えてくれた。そういった積み重ねがあったことがアトリエを地域に開きお互いに知り合う機会として機能していたように感じた。

団体所在地 | 安曇野市 MAP A21

団体概要

特別な支援が必要な方達の生活と仕事の場を中心に、芸術活動、ものづくりを通じて自分を表現する喜びを探し、実現することを目指しています。

活動内容

工房整備週末ワークキャンプ
活動日時 | 7/22-23

粘土造形ワークショップ
活動日時 | 8/5

野焼きワークショップ
活動日時 | 9/2-3

土で遊び、土で焼く
野焼きの焼き物作品展
活動日時 | 10/25-29

コーディネーターより

特別な支援が必要な方のアトリエを共有したものづくりを通して、地域が現状を知りゆるやかにつながり互いに認識を深めはじめたとても豊かな時間だった。(佐久間圭子)



1 中学校でコンソフォカを作って演奏するワークショップ
2 それぞれの楽器を持ち寄って即興音楽ワークショップ
3 宮田市で音楽ステージ

団体所在地 | 宮田村 MAP A22

団体概要

様々な年代の人達が、文化芸術活動を通じて繋がりを深め、障がいの有無を問わず、助け合いながら、生きがいを持って暮らせる地域づくりを目指した活動を展開します。

活動内容

- 5/13 第14回ふれあいフリーマーケット 環境音楽ライブ
- 7/29 夏秋文彦の東欧の倍音笛『コンソフォカ』を作って演奏するワークショップ環境音楽ライブ
- 8/6 むらびとアート音楽会 水谷浩章+夏秋文彦ワークショップ『即興って、なに?』『コンソフォカ』を作って演奏する
- 8/27 むらびとアート 景観ライブ IN 宮田市 国登録文化財「喜多屋の夕べ」ミニ演奏会・プロジェクトマップ
- 10/22 むらびとアート 景観ライブ IN 宮田市 竹林とディジュリドゥー作りと演奏を楽しむ企画
- 11/5 絶品!チベット料理×音楽ライブを味わおう!
- 12/3 【アート鑑賞】<絵×音楽ライブ>
- 12/17 心を癒す音楽と語りコンサート
- 12/24 みんなでカナデルライブ
- 2024/1/7 誰でも自由に演奏できるようになる!魔法の鍵盤ハーモニカワークショップ
- 2024/2/4 手話で音楽を楽しもう!

コーディネーターより

福祉・まちづくり・文化芸術が交わり合って目指す社会づくりの取組で、良質にも関わらず気軽に楽しめる多様なイベントが充実していることが印象的だった。(佐久間圭子)

アートを活用した地域包括的支え合い

つながりアートプロジェクトは、宮田村で障がいの有無を問わず子どもからお年寄りまで、様々な年代の人達が文化芸術活動を通じて繋がりを深め、互いに助け合いながら生きがいを持って暮らせる社会づくりを目指した活動を実践している。音楽家の中田真由美さん、夏秋文彦さん、保健師の三浦典子さんを中心に、MIYADA村人TERRACEを拠点にしたワークショップや音楽イベント等を通じたコミュニティづくりを展開している。

宮田村役場や教育委員会、町並み保全活動や歴史的建造物活用に取り組む「宮田村の景観を考える会」、障がい当事者や自死遺族支援、そして宮田村内や近隣に住むアーティストと、多岐にわたる分野と連携していることが特徴で、様々な興味関心や立場、特性、状況においても楽しむことができるよう多角的な視点でのイベント企画をしている。

むらびとアート音楽会・水谷浩章+夏秋文彦ワークショップ「即興って、なに?」では、音楽経験の有無・持ち寄った楽器もバラバラの参加者同士が即興演奏体験をした。吉本有里さんによるライブ&シェア会では、大切な人の“死”と向き合い、共有する心の癒しの時間があった。カナデル幸響楽団によるクリスマスライブパフォーマンスでは、地域に暮らす障がいのあるメンバーが素晴らしい演奏を見せた。懐広く様々な人を受容する内容の企画が続いた。文化芸術を媒介に、優劣を競うのではなく誰もがつながり認め支え合う、地域包括的ケアの一助となっていく実践的な取組と言える。このような活動が日常に根ざし、無理のない形で持続していくための環境づくりが、地域の多様な主体との協働により進展することを期待。

もんぜん千年芸術祭実行委員会
もんぜん千年祭



1 善光寺大勧進紫雲閣での小山利枝子作品の展示/2 ナカムラジン作品の展示会場である善光寺寿量院の入口/3 参加アーティストによるトーク開催

善光寺界隈の担い手が年代や分野を超えて
協働する芸術祭

善光寺界隈の歴史的な景観や建物を生かし、文化的豊かさを感じる芸術祭を灯明まつりと同時期に開催。アート、観光、まちづくり等、門前界隈の担い手が年代や分野を越えて協働し、地域定着と全国への認知拡大をめざす。

本事業は芸術祭ではあるが、有名アートディレクターを招聘するのではなく、地域のアートに関わる人材の協働のかたちをとり、アート人材の育成と善光寺との関係、地域の事業者やまちづくりに関わる人々とのネットワークを推進させる。

初年度である令和5年度はプレ開催として小規模での開催を実施した。会場は、善光寺の大勧進や寿量院、白蓮坊、老舗酒造西之門よしのやという善光寺内外の伝統的な場所と街中の拠点「R-DEPOT」や美容室「THE DOTS」という参道沿いの若者が集まる場をバランスよく配置し、全体の作家数は少なかったが、質の高い、まちの歴史や文化とアートを考えるという、「もんぜん千年祭」のコンセプトに合った開催内容となった。

2月の「長野灯明まつり」(長野商工会議所をはじめとした実行委員会が主催)に合わせた開催であり、マスコミの反応も大きく、厳寒期でありながら3会場で7日間4570名の来場者を数えた。

「善光寺という場所の持つ歴史と、祈りの場としての人々の親しみなどにより発する、強力な磁場としての大きさを、来客者の反応から展示中に感じることが多かった。それぞれ個性の明確な企画であったが、どのイベントにも予想以上の参加者があり、熱気が感じられた。同時開催の「もんぜんまち劇場」、フリンジ企画にも、参加者は多かった。界隈を周遊するという感覚を楽しんでもらえたのは大事なポイントであった。」と石川利江事務局長は語る。

団体所在地 | 長野市 MAP A23

団体概要

千年余も続く善光寺門前で、アートや芸能、遊びを通じて、アートと中世から続く救いの場としての善光寺信仰が会います。門前を拠点とするアートやまちづくりなどの多種多様な人材が集まり、活動しています。

活動内容

「もんぜん千年祭」プレ開催(約4,800人)

活動日時 | 2024/2/7-2/13

■ 展示プログラム

出品作家 | 小山利枝子、中村恭子

展示会場 | 善光寺大勧進紫雲閣

出品作家 | ナカムラジン

展示会場 | 善光寺寿量院

出品作家 | 郡司ベギオ幸夫

展示会場 | 西の門よしのや

出品作家 | 大木裕之

展示会場 | THE DOTS

出品作家 | 宮本忠長

展示会場 | R-DEPOT

■ 演劇プログラム

もんぜんまち劇場

会場 | もんぜん各所

■ イベントプログラム

参加アーティストによるトーク開催(大勧進)

活動日時 | 2024/2/10

池谷薫監督 映画「先祖になる」

上映・トーク(白蓮坊)

活動日時 | 2024/2/11

トーク「宮本忠長の長野修景計画を巡って」(R-DEPOT)

活動日時 | 2024/2/12

コーディネーターより

現代アートを媒介として地域の文化資源と担い手、既存のイベントを丁寧につなぐことで相乗効果を生み出している。他地域の模範例になり得ると期待。(伊藤羊子)

やまびこラボ
子ども(と大人)のためのさっきょく
ワークショップシリーズ



1 自然環境から聞こえてくる音を自由にスケッチするワーク
2 子どもと大人と一緒に音を作り出していく
3 12月には美術家をゲストに招いたワークショップも開催した

団体所在地 | 松本市 MAP A24

団体概要

2022年設立。長野県にゆかりのある作曲家・ヴァイオリン奏者による音楽家コレクティブ。創作や演奏活動を通して長野県に新しい音楽のためのコミュニティを作りたいことを目的に活動している。

活動内容

「第2回子ども(と大人)のためのさっきょくワークショップ」

講師 | 柳沢耕吉(ギター奏者/作曲家)

やまびこラボ

活動場所 | あがたの森文化会館

活動日時 | 10/28

「第3回子ども(と大人)のためのさっきょくワークショップ」

講師 | 濱田育美(美術家)

やまびこラボ

活動場所 | あがたの森文化会館

活動日時 | 12/2

コーディネーターより

作曲ワークショップという名の通り、子どもと大人が協力して音を作り出していく。子どもも大人も妥協せず、時間をかけ、粘り強く音を作る姿勢に痺れた。(藤澤智徳)

自然と音楽、子どもと大人の真剣勝負

やまびこラボは、作曲家2名、バイオリン奏者1名、3人の長野にゆかりを持つ音楽家によって構成される音楽家コレクティブである。2022年から県内での活動を始め、これまで子どもを対象とした作曲体験を開催している。2023年1月に松本市で開催した「子どもさっきょく体験ワークショップ」では参加者自身の「名前」をもとにした作曲を行った。

助成対象の事業では10月と12月に「子ども(と大人)のためのさっきょくワークショップ」を開催。10月は、ゲスト講師にギター奏者で作曲家の柳沢耕吉さんを迎え、19名の子どもが参加した。まず「イヤークリーニング」と呼ばれる手法で、あがたの森公園で耳に聞こえてきた音—木々のざわめき、自動車の通過音、落ち葉を踏む音など—をスケッチし、身の回りの自然や環境へと意識を開く活動をした。その後、それぞれがスケッチした音を、講師がギターやヴァイオリンの音へと変換し、楽器演奏に結び付けた。スケッチした自然音に近い音をギターやヴァイオリンで表現する時、講師も子ども達も関係なく相応しい音を探る様子は、各々が音楽を追求する真剣な姿勢そのものだった。

12月のワークショップでは、美術家の濱田育美さんをゲスト講師に迎え、20名の子どもが参加。あちこちに葉や枝が落ちる公園で採集した自然物を用いたオリジナルの楽器を制作し演奏した。

こうしたワークショップの取組が中長期的に、音楽家にとって、あるいは地域や子どもにとって、どのような意味をもつこととなるのか、今後の活動の展開のなかでより明確化されることを期待。先々いろいろな人からさまざまな形で支援を得て活動できるとよいのではないかとと思われる。

特定非営利活動法人 夢空間松代のまちと心を育てる会 松代の文化で町と人を未来に繋ぐプロジェクト



1 復活した、子ども勝どき太鼓を披露
2 松代中70周年コラボで創作した松代オリジナルソング
3 ゲストGOCOOによる太鼓ワークショップ

松代町の歴史文化を若い世代へ継承していくため

長野市松代町が有するさまざまな時代の歴史文化遺産を継承する原動力となってきたのが、NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会である。地域住民や来訪者に向けた魅力発信やこれまでの歴史文化の継承、新たな文化の創造を目的に2002年に発足。20年以上にわたって松代のまちづくりを住民が主体となって支えてきた。高齢化に伴い若い世代へ活動を引き継いでいくことが課題となっており、今回の助成事業での取組は、子育て世代である理事・青木恵さんが中心的な役割を担い、松代在住のアーティストや、地域のさまざまな担い手をつなぐものとなる。今年度は、子ども勝どき太鼓復活と松代中学校の生徒とのオリジナルソング作りを両輪に若い世代に松代や日本の古き良きかっこよさを伝えるべく活動をスタートさせた。

松代の文化と町と人を未来につなぐプロジェクト

子ども勝どき太鼓は一度途絶えたが、復活に向けて指導者の先生とともに月に2〜4回集まり練習を重ねた。また今年度が創立70周年であった松代中学校と、地元在住のSpinna B-ILLさん、NOBYANさんと協働して記念のオリジナルソングを制作した。

11月5日、松代城跡でこれらの活動の発表をメインに「松代の文化と町と人を未来につなぐプロジェクト」を初開催。子ども達の発表に加え、地域に関わる団体や企業の展示や出店の参加もあり、子どもから高齢者までが楽しむ姿が見られた。地域との細やかな繋がりを築いてきたNPOのメンバーが運営を支え、城下町松代を象徴する場所を活用して多世代が交流する、未来へのつながりが可視化された印象的な催しとなった。

団体所在地 | 長野市 MAP A25

団体概要

松代は城下町のある自然と歴史、文化の香り高い町です。その素晴らしさを長野市が立案した「信州松代町ごと博物館構想」として実現するべく2002年に立ち上がり結成。松代にある資源を活かし地域の活性化を目指し活動してきました。

活動内容

子ども勝どき太鼓 ワークショップ

活動場所 | 松代城本丸内
活動日時 | 5月-10月末

オリジナルソングWS

活動日時 | 6/16・6/30・7/11・9/7

松代の文化と町と人を未来につなぐプロジェクト

- ・NOBYAN:松代野菜の歌披露
- ・中学生と作った松代オリジナルソング発表
- ・子ども勝どき太鼓
- ・GOCOO太鼓WS
- ・GOCOO LIVE
- ・衣食住楽WS など

活動場所 | 松代城本丸内
活動日時 | 11/5

コーディネーターより

精力的に継続してきた地域活性の取組自体の世代交代だけでなくさらに若い世代へ誇りの継承を目指す取組。どの世代にも情熱が感じられ、松代の歴史文化が続く理由がよくわかる。(佐久間圭子)

特定非営利活動法人 リベルテ 路地の開き 一開かれた福祉施設で関わり合いと出会いを生み出すアートプロジェクト



1 リベルテのメンバーと一般参加者が一緒に上田の街中を歩いた
2 街歩きで食べるおにぎり用のお米もメンバーが収穫した
3 事前のWSでは、メンバーそれぞれが上田の街の記憶を書いてマッピングした

街に開き、暮らしに溶け込んでいく障がい福祉のあり方

リベルテは、障がい福祉施設としてサービスを提供しながら、並行して文化事業を行う。メンバー(通所者)へのケアをきっかけとして、地域の人たちに施設を開いていくにあたり、表現活動を通じて多様性を社会に向けて発信し、同時に「障がい」や「福祉」の意味や価値を変えたり、広げたりする試みを行っている。

今年度の事業では、①田んぼでの米づくりをメンバー、スタッフ、地域の人たちで行い、収穫した米を炊いておむすびを作る。②上田の街の記憶を地域の人やメンバーそれぞれから集め、地図に記録、そこからメンバーたちが街歩きのコースをつくる。③つくったコースを一般の参加者と小グループに分かれて街歩きをするイベント開催。ゴール地点で①のおむすびを参加者、メンバー、スタッフ一同食べる。…このようなプロセスで行われた。街歩きでは、案内をしてもらいながら、メンバーの皆さんの街の経験について、参加者が直に会話することができた。

支援する人が主体で、支援される人が客体だとして、障がい者はいつも客体側なのだろうか。このプロジェクトにおいて、米を作ったり、おむすびを握ったりする主体は障がいの有無関係なく、街歩きを主導するのはリベルテのメンバーさんたち。参加者が支援されていたと見ることができる。支援の関係性は可変的、双方向的であることを、メンバー、スタッフともに体現するアートプロジェクトであった。

この取組からインスパイアされ、上田市にて有志により月1回「むすびの日」が行われている。その日集まった人たちが夕食を作り一緒に食べるインクルーシブな夕食会である。街の日常の暮らしの中に、障がい福祉がどのように開かれ溶け込んでいくのか、その一例といえる。

団体所在地 | 上田市 MAP A26

団体概要

障がいのある人たちの「何気ない自由」や「権利」を尊重していける社会や人、関係づくりを行うことを目的に2013年に設立。障がい者福祉事業と文化事業という2つの事業を中心に据え、上田市にて活動している。

活動内容

田植え・稲刈り

活動日時 | 6/1・10/12

アトリエ屯にて「街の記憶」を集めるワークショップ

活動日時 | 6/3-4

街歩きワークショップ

活動日時 | 7/28・8/26・10/11

のきした時間銀行にてひらくワークショップ

活動日時 | 10/26

「路地の開きーリベルテと世界を結ぶ街歩きー」本番

活動日時 | 10/29

「路地の開き23-24 アーカイブス展」

活動日時 | 12/9-1/13

記録集作成

活動日時 | 2024/2/25

コーディネーターより

画や歌やパフォーマンスのような「アート」だけでなく、アート自体の形を自由にして「障がい」や「支援する/される」の関係を解し、軽やかに転回させている。凄いことだと思う。(野村政之)

わかち座

わかち座 BBG事業／
農作物とアート作品を収穫するプロジェクト



1 BBGセッション成果発表公演の様子
2 BBG収穫祭で提供されたランチ
3 ブルーベリーつみとりワークショップには多くの人が訪れた

アートと農、暮らしと表現

わかち座は演劇・ダンスの上演活動を行うとともに、家業で営むブルーベリーガーデン黒岩(以下、BBG)を地域の文化交流拠点として活用し、生活と表現活動の共存や、地域住民とアート関心層の交流をどう生むか、を課題としたプロジェクトに取り組んでいる。

「BBGセッション」では、振付家・ダンサーの鈴木ユキオさんを講師に、BBGで月1回、定期的にコンテンポラリーダンスのワークショップを実施、11月にショーイングを行った。依頼を受けて佐久市コスモホールの企画にも出演し、地域住民にBBGの活動、認知を広げる機会を得ることができた。

「BBG収穫祭」では、展示やパフォーマンスなどBBGに集う人たちがそれぞれの表現を持ち寄り、昼食はブルーベリーと物々交換で得た旬の食材の料理を味わい、農やアートを介して恵みを味わう一日を過ごした。

「BBGキャンプ」は、公募で3名のアーティストがBBGに2泊3日で滞在、農家の暮らしを体験しながら制作活動をするという新しい交流の試みを行った。

「ブルーベリーの摘みとりワークショップ」では、朝の収穫時間を利用し、栽培歴20年以上の黒岩和夫さんがブルーベリーを摘みながら、先祖代々の土地での家業の営みやブルーベリーの品種の違いなどを参加者に伝えた。

こうした活動の継続を通して、ダンス・演劇企画の参加者にとって文化交流拠点としてBBGが定着してきたのは間違いない。一方で、普段あまりアート活動に関わらない地域住民にとっては、BBGが「アートの人たち」が集まる(自分たちから遠い)場であるというような認識も生まれつつあるという。アートと農、暮らしと表現がどのようなバランスであるのがよいのか、さらなる探求と実践を見つめていきたい。

団体所在地 | 小諸市 MAP A27

団体概要

ブルーベリー畑と直売所を拠点に、さまざまな表現を制作する場と活動する人のつながりを創造することを目的に活動。農作物もアート作品も生む「畑」として、生活や地域と表現活動が両立・共存する道を模索している。

活動内容

BBGセッション
(鈴木ユキオコンテンポラリーダンスWS)
活動日時 | 5/21・6/11・7/17・8/6・9/10
10/15・11/26

BBGキャンプ
滞在アーティスト | 中川賢司、幸田穂奈美
寺越隆喜
活動日時 | 7/1-3・7/7-9・7/28-30

ブルーベリーつみとりワークショップ
活動日時 | 7/8

BBG収穫祭
活動日時 | 7/23

コーディネーターより

刻々と変わる自然環境の中で農作物を育て収穫するように、BBGの活動も日々の生活や地域との関係など様々な状況に向き合い、対応する中で成り立っている。その姿勢をこれからも応援していきたい。(藤澤智徳)

特定非営利活動法人 アイダオ

映画の学校2023 -うえだ子どもシネマクラブ-



1 ことばと身体のワークショップ。“演じる”を通じてコミュニケーションは言葉だけでなく表情や仕草からも感じ理解しあっていることに触れた
2 8mmフィルムから地域の暮らしと歴史を知る/3 出合いの映画を撮ってみよう!

他者と自分を受け入れる映画の学び体験

令和2(2020)年から、NPO法人アイダオが中心となり、学校に行きづら・行くことをやめた子どもたちの居場所として映画館を活用する「うえだ子どもシネマクラブ」がスタート。上田映劇で開かれる月2回の上映会には子ども、親、教育関係者などが集う。登録した子どもたちは別日に劇場の仕事を手伝いながら日中を過ごすことができ、これを出席扱いとする学校もあることで注目を集めている。

本事業は、うえだ子どもシネマクラブから派生し、上映会で鑑賞した作品を対話で深める映画教室や、アーティストによるワークショップ・講座を通して、子どもたちの「学びの場」へと発展させる試み。“観る”から“学ぶ”“創る”に踏み込み、実際に演技をしてみたり、映像を撮影してみたり、映画館ならではの学びの体験となった。

この活動を通して、子ども同士の関係性にも変化がみられた。これまで「自分」という枠のなかで過ごしていた子どもたちが「〇〇がいるから会いにいきたくない」や「役割があるから行く」というように、自分一人ではなく“誰か”や“何か”と出合いに来るようになったという。また、ワークショップへの参加が、ひととき親子で離れて過ごすきっかけともなり、保護者の皆さんにとっても安心して過ごすことができる場になったそうだ。

さらに、上田映劇とほど近い民間文化施設・犀の角で行われている、女性の駆け込み宿「やどかりハウス」の取組や、子どもたちが自分たちのしたい文化活動をする「うえだイロイロ倶楽部」とも連動し、多年齢で多様な人との関わりから、他者や自分自身を受け入れる場として、意義深い地域づくりの一端となっている。

団体所在地 | 上田市 MAP B01

団体概要

中間支援NPOアイダオがコーディネーターとなり、上田映劇を子ども・若者たちの居場所と新しい学びの場として活用する取り組みを行なっています。学校に行きづらかったり、行くのをやめた子どもたちに向けて「映画館においてよ」と呼びかけています。

活動内容

vol.1 ことばと身体のワークショップ
講師 | 点と(加藤紗希さん、豊島晴香さん)
活動場所 | 犀の角
活動日時 | 7/23 (一般向け)
7/24 (うえだ子どもシネマクラブのメンバー)

映画の教室「古の王子と3つの花」
ヒエログリフワークショップ
講師 | 工藤雅子さん(チャイルドフィルム)
活動日時 | 8/21

vol.2 他者のことばを語るワークショップ
講師 | 竹中香子さん(フランス演劇教育者)
活動場所 | 犀の角
活動日時 | 9/10 (一般向け)
9/11 (うえだ子どもシネマクラブのメンバー)

vol.3 8mmフィルムから地域の暮らしと歴史を知る
講師 | 三好大輔さん(ALPS PICTURES)
活動場所 | 犀の角および上田映劇
活動日時 | 12/3 (一般向け)
12/4 (うえだ子どもシネマクラブのメンバー)

vol.4 映画の学校×こども映画教室®
“出合い”の映画を撮ってみよう!
講師 | 深田 隆之さん(映画監督/こども映画教室®)
活動場所 | 上田映劇
活動日時 | 2024/2/26
映画上映10:00~ ワークショップ12:30~

コーディネーターより

うえだ子どもシネマクラブに来る子どもたちの変化が目に見えて実感することができた。アイダオだけでなく、海野町商店街界隈での共助があることの強みを生かした事業だった。(佐久間圭子)

一般社団法人 大昔調査会
SUWA×文楽 The Second Stage



1 公演『本朝廿四孝』『奥庭狐火の段』
2 長野県諏訪清陵高等学校附属中学校への文楽公演アウトリーチ 文楽の説明
3 同アウトリーチ 文楽の体験

文楽の上演を通して
地域の歴史文化を掘り下げ、子どもたちへ

「八重垣姫」が登場する『本朝廿四孝』は、人形浄瑠璃や歌舞伎などの伝統芸能では人気演目として知られる。諏訪は、その物語の舞台であるだけでなく、地域の歴史（諏訪社や諏訪法性の兜）や伝承（武田と上杉の話）、現象（御神渡り）などが取り込まれる作品であるにもかかわらず、ご当地であり知られていない。文楽『本朝廿四孝』の上演を通して地域の歴史文化を掘り下げるとともに子どもたちへの普及の機会とした。

「諏訪大明神」ゆかりの寺院である照光寺を会場に2日間、2回の公演を実施し、地域の伝承や文化芸能を学べるイベントを開催した。

今年度は学校へのアウトリーチを実施。長野県諏訪清陵高等学校附属中学校の生徒240名が文楽の説明や人形遣いのワークショップ、文楽公演「伊達娘恋の緋鹿子 火の見櫓の段」を体験。子どもたちにとっては刺激のある良い学び機会になったといえる。

更に「観光誘致に向けた取り組み」を新たに実施し、下諏訪町観光振興局に依頼して文楽公演を抱き合わせた旅行パッケージを実施。また前年の経験を活かし、平台を使って座席を高くしたりなどして、どの座席からも公演を楽しむことが出来るような工夫を行った。「『来年も是非やってほしい』という声をたくさんいただき、文楽公演を続けていくことの期待感と意義を感じました。」と高見俊樹代表は語る。

人形浄瑠璃文楽のプログラムを実施することで、ふるさとの学びと愛情、郷土への誇りを感じてもらふ機会の創出、また将来的に人形浄瑠璃文楽に関わる人材発掘に繋がることも期待している。

団体所在地 | 諏訪市 MAP B02

団体概要

「あの頃を、あたらしく、おもしろく。」をテーマに、考古学や歴史学等に根ざして、地域の大昔（原始・古代）や昔（中近世・近現代）に関わる歴史的・文化的遺産の保護・活用に資する活動を行う社会貢献団体。

活動内容

『本朝廿四孝』『奥庭狐火の段』の公演を主とし、地域の伝承や文化芸能を学べるイベントを10月10日、11日に実施した。

プログラム

- ① オープニング
「谷響」メンバーによる仏教音楽・声明
照光寺僧侶・宮坂有憲氏による講話
活動日時 | 10/10

御諏訪太鼓伝承者・山本麻琴氏を含む
4名による御諏訪太鼓の奉納演奏
曲目「諏訪雷」
活動日時 | 10/11

- ② 対談
八剣神社・宮坂清司と芸芸員・
吉田勘彌氏による対談「諏訪湖の歴史と伝承」

- ③ 説明と体験
豊竹芳穂大夫による人形浄瑠璃の説明、
桐竹次郎による人形遣いの説明と体験

- ④ 公演
『本朝廿四孝』『奥庭狐火の段』

- ⑤ 学校への文楽公演アウトリーチ
活動場所 | 長野県諏訪清陵高等学校附属中学校
活動日時 | 10/11
対象 | 全生徒240名

- 【プログラム】
- ⑦ 文楽の説明と体験
- ① 文楽公演「伊達娘恋の緋鹿子 火の見櫓の段」

コーディネーターより

文楽と諏訪地域の関わりを再認識するとともに、次世代を担う子どもたちが文化芸術を体験し、地域の歴史文化や自然を学ぶ、文化的資源の発掘・活用・継承に資する取組。今後の観光資源化にも期待。(伊藤羊子)

木曾ペインティングス
展覧会「土着とストリート」及び関連プロジェクト開催



1 古着のリユース等して行ったファッションショー「neo farm style」
2 展覧会「土着とストリート」にて展示された中條聡氏の作品
3 展覧会会期中には座談会やアーティストトーク、WSなども実施した

芸術祭からアーティスト・コレクティブへ

木曾地域でアーティストの滞在制作や、空き家を活用した展示、持続可能なアートのあり方を追求した地域芸術祭「木曾ペインティングス」を推進してきた岩熊力也さんが、アート・コレクティブ「GR19 [galaxy route nineteen]」を結成し、アーティスト主導で新たな活動をスタートさせた。

今年度はGR19のメンバー、奥野宏さんがセルフビルドで改装した、大桑村のアート拠点「la mora」をメイン会場としてアートプロジェクト『土着とストリート』を実施。15名のアーティストが作品を制作・発表し、加えて地域の小中学校・高校の生徒や大学生とのワークショップで生まれた作品の展示や、la moraの家屋でかつて養蚕が営まれ資材なども残されていたことから、これを活用し、蚕をテーマとした作品展示、短編演劇の上演が行われた。加えて、大桑村で採集した土を使った陶芸作品など、素材についても工夫が見られる内容となっていた。

また関連イベントとして、大桑村歴史民俗資料館の屋外空間を活用したファッションショー「neo farm style」では、地域で不要になった衣類等も利用しながら新たにデザインし直し「気候変動の過酷な時代をたくましく生き抜く未来の農民達のファッション」をテーマに衣装を制作。衣装を着て歩くモデルを公募し、地域住民やアーティスト24名がこれを担った。普段と違うモデルの個性的な姿と衣装の取り合わせが目を引き、GR19のDJ、スコップ三味線のパフォーマンス、観客を巻き込んでの「須原ばねそ」の踊りも加わって、この場所でこそ生まれるユニークな盛り上がりとなっていた。

今後は、木曾地域での活動だけでなく、GR19のメンバーが移動し、県内外でのリサーチを組み込んだ形で、テーマをもった作品制作・展示を行うプロジェクトが構想されている。ローカルな経験を踏まえ、新たなアート実践の「道」を探る活動に注目したい。

団体所在地 | 木曾郡 MAP B03

団体概要

アーティストの岩熊力也氏を中心に2016年設立。2017年からは芸術祭「木曾ペインティングス」を開催するなど、木曾地域を拠点に持続可能なアートのあり方を地域の課題に向き合いながら取り組む活動を行っている。

活動内容

松本県ヶ丘高校3年生へのワークショップ
活動場所 | la mora
活動日時 | 4/28

大桑小学校でのワークショップ
活動日時 | 6/13・26・7/10・9/16

木村真由美個展「キョムノマ」
活動場所 | ギャラリーカフェSOMA
活動日時 | 9/1-11/12

ファッションショー「neo farm style」
活動場所 | 大桑村歴史民俗資料館
活動日時 | 9/16

お茶の水女子大生徒らを対象とした
ワークショップ
活動場所 | la mora
活動日時 | 9/22

展覧会「土着とストリート」
活動場所 | la mora
活動日時 | 9/23-10/22

演劇上演「かいころく」
活動場所 | la mora
活動日時 | 9/23

木曾町中学校でのワークショップ
活動日時 | 10/16

近江詩織さんによるワークショップ
活動場所 | la mora
活動日時 | 10/21・22

その他ミュージックビデオ制作等実施

コーディネーターより

アーティスト主導のもと、企画立案から事業のマネジメントまで一貫して実施。アーティストが自ら決め、自ら実践するからこそその身軽さと柔軟さが感じられた。(藤澤智徳)

特定非営利活動法人 劇空間夢幻工房
劇空間夢幻工房「ひかる翼」プロジェクト



1, 2 ミュージカル「チュイチュイ～左手のバイオリン弾き～」劇中より
3 乳幼児を対象とした才能開花講座「ひかる翼」チャイルド・プロジェクトの様子

県内7市での上演達成！そして次のステップへ

劇空間夢幻工房は、令和4（2022）年度に新作音楽劇『チュイチュイ～左手のバイオリン弾き～』を制作し、飯山から伊那まで県内各地で上演。2年目となる今年度は、大町市・茅野市・佐久市に巡演。スズキ・メソードと出逢い、左手のハンディを乗り越えて活躍するバイオリニスト・牧美花さんの半生を描き、本人も出演する本作品は、県内7市での公演実施となった。

今年度からは、本作の上演機会を一層増やし、普及することを目指し、エコ★ミュージカルとして作品のリサイズ化にも取り組み始めている。つまり現状では、公共ホールの中～大ホールでの上演を想定しているため、上演時間も長く、舞台セットも規模が大きいものとなっている。これを小規模化することで、学校や幼稚園、公民館など、これまで届けることができなかった場所にも作品を届けることを意図して、脚本を書き換え、新たな演出を試みる。執筆にあたっては、夢幻工房代表・座付作家である青木由里さんが中心となりつつ、一部の内容は若手座員の青木賢治さんが取り組むなど、夢幻工房内での制作体制についても新たな方法を試みる契機となっている。

また、前年度に引き続き、乳幼児向け才能開花講座「ひかる翼」チャイルド・プロジェクトも継続的に実施している。0歳からアートに親しむことができる環境づくりを目指し、乳幼児を対象とした表現・体操講座を開講。本年度は、朋友バレエスタジオでの平日月例開催に加え、参加者から要望があった日曜開催も年2回実施する。また、夏休み特別講座として須坂市でも開催予定。

団体所在地 | 長野市 MAP B04

団体概要

長野市を拠点に活動するプロ劇団。1999年の劇団旗揚げ以来、市民参加型演劇の上演や小学生らを対象としたキッズクラスの開講など、幅広い世代を対象に演劇を広めるための活動に取り組んでいる。

活動内容

「ひかる翼」チャイルド・プロジェクト

①通常講座
活動日時 | 4/26・5/24・6/28・8/30・9/27
10/25・11/25・12/27
2024/1/20・2/28

②夏休み特別講座
活動場所 | 森の音楽堂喜輪
活動日時 | 7/30

③出張講座
活動場所 | 佐久市コスモホール
活動日時 | 2024/1/20

「チュイチュイ～左手のバイオリン弾き～」

①大町公演
活動場所 | 大町市文化会館エコーホール
活動日時 | 8/11

②茅野公演
活動場所 | 茅野市民館マルチホール
活動日時 | 8/13

③佐久公演
活動場所 | 佐久市交流文化館穂の香ホール
活動日時 | 2024/2/11

コーディネーターより

前年度に制作した音楽劇の県内巡演と、脚本の再構成の参考に、私たちコーディネーターも交えて読み合わせも実施。来年度のコンパクト版の上演に期待したい。(藤澤智徳)

特定非営利活動法人 原始感覚舎
信濃の国 原始感覚美術祭2023+原始感覚縁日
+原始感覚一座県内公演



1 安藤榮作氏の作品制作の様子
2 ザイ・クーン氏と久田舜一郎氏のパフォーマンス
3 中村綾花氏の土器ワークショップ

「原始感覚」への共感と
多様な人々が集う芸術祭への発展

大町市の木崎湖畔や、千年の森の自然環境のなかで、アーティストが滞在制作やパフォーマンスを行う原始感覚美術祭。2010年から始まり14回目の開催となる。杉原信幸さんから地域在住のアーティストが主導し、変化を重ねながら、独自の個性ある地域芸術祭を形成してきた。

2023年は、ようやくコロナ禍が明け、アーティストも来場者も久々にオープンに集うことができるようになった。展示・上演で参加したアーティストは50組以上、海外・県外のアーティストに加え、北信、東信、中信、南信の県内在住アーティストが集った。地元からの出張店舗も増え、県内外からの子ども連れでの来場者も増えたという。

原始感覚一座として活動しているメンバーは、個性や世代に幅が出てくるなかで、集団として、祭りへの関わり方としても、軸とする価値観がより明確化している。毎夏開催する美術祭に対して、アーティストだけでなくボランティアの人たちの中にも、来年以降も活動に関わりたいという人が増えている。原始感覚美術祭を知る人が増え、コロナ禍を経て、「原始感覚」というテーマや、自然と関わりあう、全ての人を表現者ととらえるあり方に共感する人の輪が広がってきているといえるかもしれない。若手のアーティストが千年の森の自然に向き合いながら創る姿や、何かを求めると熱狂するパフォーマンスのあり方などは変わっていないが、多様な人々の交流の場として発展している…間口の広さが変わってきている様子である。

芸術祭の発展に加え、原始感覚一座としての県内外の巡業や、西丸震哉記念館の運営継続への取組など、意欲高く地域に根ざした活動を目指している姿をみて、応援する存在が増えていくことを期待。

団体所在地 | 大町市 MAP B05

団体概要

木崎湖畔で、原始感覚をテーマにジャンルを越えた表現者を招聘、作品制作と公演・ワークショップを行い、訪れるあらゆる人が表現者となる「信濃の国 原始感覚美術祭」を2010年より毎夏開催している。

活動内容

原始感覚一座
活動場所 | 梓川アカデミア館(松本市)
活動日時 | 6/4

中村綾花の土器ワークショップ
活動場所 | 西丸震哉記念館(大町市)
活動日時 | 8/1

原始感覚縁日
活動場所 | 庵寓舎(大町市)
活動日時 | 8/4

信濃の国 原始感覚舎美術祭 2023
展示と公開制作
活動場所 | 信濃公堂、西丸震哉記念館、
美麻爽風館、千年の森ほか(大町市)
活動日時 | 8/19-27

火おこしの儀
活動日時 | 8/25

宵祭
活動日時 | 8/26

本祭
活動日時 | 8/27

記録集制作・発行

コーディネーターより

15年にわたり、50組以上のアーティストが参加する芸術祭を、自分たちで運営し続け、交流の場として発展させることは、簡単ではないし、この財産に対して支援者の輪が広がることを期待している。(野村政之)

06

株式会社 さきわいクレアシオン

戸隠・是色館プロジェクト第四章 佐藤健作和太鼓ライブ「緑風 Ryokufū」



1 和太鼓奏者佐藤健作さんとゲストのバレエダンサー小池ミモザさんが競演
2 東京2020オリンピック競技大会閉会式でも披露した大太鼓「不二(ふじ)」やさまざまな和太鼓を演奏する佐藤さん/3 不二メソッドワークショップ

世界的アーティスト二人による贅沢なパフォーマンス

和太鼓奏者・佐藤健作さんは、長野市戸隠の森の中にある稽古場・是色館で日々鍛錬を積んでいる。コロナ禍の令和2(2020)年、活動が制限されてしまった芸術家・演奏家、観劇の機会が減った観客、双方のために、是色館を会場に小規模で濃密な公演を行う「戸隠・是色館プロジェクト」をスタートさせた。本助成事業では、令和4(2022)年度「遊心YUSHIN」に引き続き、今年度の第4弾「緑風 Ryokufū」も支援。ゲストには国際的に活躍するバレエダンサー小池ミモザさんを招いて、是色館でしか観ることができない和太鼓とダンスの特別なパフォーマンスを披露。約80名の観客を魅了した。プロフェッショナルの荘厳なパフォーマンスだけでなく、気さくなお二人の人柄、魅力が弾けるトークパートもあり緩急ある公演となった。クラシックバレエを学んでいる小学生から質問を受けた小池さんが直接指導をする場面もあり、距離が近い是色館の空間だからこそ生まれる幸福な時間となった。

ボディワークメソッド体験と不二を打つワークショップ

また、関連イベントとして佐藤健作さんが和太鼓を打つ前の基礎的な練習として日頃行っているストレッチや体を整える運動「不二メソッド」のワークショップも開催。戸隠観光協会との連携もあり、イギリスからの参加者も交えて前半はボディワークを、後半は実際に不二も含めた和太鼓を打ちながら和太鼓演奏体験をすることができた。また、小学生～高校生を対象にした不二メソッドワークショップも同日開催。小学校でのワークショップ開催の打診もあり地元から海外まで交流の広がりをみせていた。

団体所在地 | 長野市 MAP B06

団体概要

和太鼓奏者・佐藤健作が2020年より長野市戸隠にある稽古場「是色館」で小規模自主公演を開始。戸隠の観光と連携強化を図り、継続的な活動基盤づくりに繋げて行きます。

活動内容

和太鼓奏者 佐藤健作 不二(ふじ)

メソッドワークショップ

講師 | 佐藤健作(和太鼓)

活動場所 | 是色館

活動日時 | 7/12(水)

第1部(大人の部) 14:00-15:00

第2部(こどもの部) 16:30-17:30

※小学生～高校生対象(保護者見学可)

戸隠・是色館プロジェクト

第四章 佐藤健作和太鼓ライブ
「緑風 — Le vent vert」

出演 | 佐藤健作(和太鼓)

ゲスト | 小池ミモザ(ダンス・振付)

活動場所 | 是色館

活動日時 | 8/26(土)-8/27(日)

各日14:00開演

コーディネーターより

4回目を迎え、観光資源が数多くある戸隠の新たなコンテンツの一つとして、地元でも是色館・和太鼓・佐藤健作さんが認知されつつある。さらに広がっていくことに期待。(佐久間圭子)

07

一般社団法人 シアター&アーツうえだ

サイノツノ・アーティスト・イン・レジデンス



1 公開シンポジウム「場/のき/表現/アートをめぐる冒険～のぎした首脳会議～」
2 三保の松原でのリサーチ
3 上田市市内での民話のリサーチ

『羽衣・天・水にまつわる探訪』 ～「羽衣」プロジェクトにおけるリサーチと滞在制作～

インド・ケララ州サヒヤンデ劇場を拠点に国際的に活動する演出家シャンカル・ヴェンカテシュワランさんの上田での滞在制作。3年後の上演を目指し、静岡県舞台芸術センター (SPAC) の女優・美加理さんと共に、『羽衣』伝説に関わるリサーチを行った。中間報告会として、企画概要やシャンカルさんと美加理さんのこれまでの協働、リサーチを報告。リサーチでは静岡の三保の松原から、天竜川、八ヶ岳山麓、佐久、上田というルートで北上しながら、各地の史跡や、各エリアを拠点とするアーティストとも交流した。今後活用する別所温泉の旧柏屋別荘でもボディワークや対話を行った。

短期研修プログラム「表現/社会/わたしをめぐる冒険」

芸術文化だけでなく、福祉や医療などの関わりのある分野で活動する35歳以下の専門人材、コーディネート人材向けの短期研修プログラム。上田市の様々な民間団体が協働する場となっている犀の角に、文化芸術や福祉の専門をもつ40代以上の講師陣と、30歳前後のメンター、全国各地からの13名の受講者が集い、2泊3日のプログラムで、活動環境や自分自身の今後、キャリアなどについて対話を繰り返しながら研修をした。

今年度、シアター&アーツうえだ代表の荒井洋文さんが、文化庁芸術選奨芸術振興部門において文部科学大臣賞を受賞し、本事業もその理由となった。様々に越境し注目される犀の角が継続できる基盤強化を図りたい。

団体所在地 | 上田市 MAP B07

団体概要

上田地域の活性化と芸術文化振興に寄与することを目的として海野町商店街に劇場、スタジオ、カフェ、ゲストハウスを備えた民間文化施設「犀の角」を2016年にオープン。様々な表現活動や地域住民・アーティストの交流の場として運営している。

活動内容

『羽衣・天・水にまつわる探訪』
～サヒヤンデ劇場 × 犀の角
「羽衣」プロジェクトにおけるリサーチ
及び滞在制作～

7/7-26 リサーチと滞在制作

(リサーチ先・滞在制作内容)

・三保の松原など、日本各地に伝わる

羽衣伝説の調査・研究

・天竜川流域や上田地域に伝わる民話や

伝承、民俗芸能の調査・研究

・別所温泉柏屋別荘にて滞在制作

7/24 中間発表トークショー

会場 | 犀の角

登壇 | シャンカル・ヴェンカテシュワラン

美加理、鶴留聡子

短期研修プログラム

「表現/社会/わたしをめぐる冒険」

会場 | 犀の角

9/8 オリエンテーション

セッション①「コロナ後の世界で、何を、

どこで、誰と、どう創る?～アラサー演劇

人たちと語る未来～」/みんなで囲む食

事会

9/9 街歩きA

セッション②「アート・福祉・インクルー

シブの現在」/みんなで囲む食事会

9/10 街歩きB

公開シンポジウム 「場/のき/表現/ア

ートをめぐる冒険～のぎした首脳会議～」

/参加者による成果発表/懇親会

コーディネーターより

地域において文化芸術を核に福祉や色々な社会的支援へと繋がり、演劇活動として国内外にリーチを広げている。優れた活動の裏で、人やお金は慢性的に不足している状況をうまく変化させられれば(野村政之)

まつもとフィルム commons

8mmフィルムの保存・活用を通じた
コミュニティ再生と多世代が参加する地域映画づくり



1 梓川小フィルム調査 / 2 梓川小効果音教室 / 3 『梓川の映画学校』完成上映会

広がる市民主催上映会、
過去・現在・未来をつなぐ映画づくり

令和4(2022)年度に制作した地域映画『まつもと日和』を、市民主導で自主上映会が開催できるよう、ガイドラインを作成、映像の貸出しを行った。公民館の納涼祭、敬老会、レストラン、神社の例祭、地域医療センターや商工会、商店街のイベント、映画祭、共創事例の研修等々、様々な場面で利用があった。市民主催者からは「記憶をよみがえらせ大変有意義な時間だった」「話題に花が咲き和気藹々な空気にできた」等の喜びの声が多かった。長野県庁や松本市役所で職員向けの上映会も開催され「地域に協働や活力を生み出す活動の意義を深く理解できた」「映像そのものの価値はもちろん、市民と共に作品を作り上げていく過程は、見習うべき点が非常に多かった」等の反応を得た。

今年度、梓川小学校5年3組が総合的な学習で地域映画制作に取り組み『梓川の映画学校』を完成、まつもと市民芸術館で開催された「梓川小映画まつり」で上映された。梓川地域の今は見られない風習や風景と、子ども達との取組の過程がおさめられている映画だ。フィルム探しから始まり、フィルムの調査、インタビュー教室、効果音教室、音楽教室、編集教室と、松本市内外のクリエイター達を講師に地域の方々に関わりながら、子ども達が自ら考え、工夫し、対話し、真剣に取り組む様子が伺える。また、作品を見てもらい、喜んでもらえることで、達成感や自信が更に確かなものになっていく。

まつもとフィルム commonsメンバーも、上映に集まる来場者も、多世代で、この映画に愛着を感じている。来年度は松本の地域映画第2弾が完成する予定だ。この取組は「第14回地域再生大賞」長野県代表に選出され優秀賞を受賞。「資料的価値も高い取り組み」「素晴らしい」と評価された。

団体所在地 | 松本市 MAP B08

団体概要

2022年、13名の有志により設立。松本市民から8mmフィルムを集めてデジタル化し、地域映画の制作と上映会を行う。鑑賞者同士が対話する機会を大切にすることで世代間交流を促すなど、地域創造にも貢献する。

活動内容

梓川小学校5年3組の37名子どもたちと担任の沼尾先生と共に8ヶ月間にわたり制作をした『梓川の映画学校』(31分)の完成。

地域映画『まつもと日和』(73分)を市民主催で35回、commons主催で24回上映。のべ1507人を動員。

Vimeoでの有料配信をスタート。

2作目に向けて、今年度あらたに集まった8mmフィルム261本、内150本をデジタル化。

長野県みらい基金 事業指定プログラム「失われゆく8mmフィルムは未来の宝映画『まつもと日和』第2作の実現へ！」で319名の方より、合計3,043,000円の支援金を集め成立。

コーディネーターより

市民上映会の広がりや梓川小学校での地域映画制作は、古いものを能動的に楽しみながら自分たちの今の活動に変換していく。個々の自発性を引き出すことがコミュニティ再生に直結するのかもしれない。
(伊藤羊子)

まるっとみんなで準備室

まるっとみんなで映画祭2023 in KARUIZAWA



1 映画祭の受付を担当する調査団メンバー
2 UWC ISAK ジャパン連携企画・お楽しみDJパーティ
3 映画を楽しむ子どもたちの様子
4 音遊びの会のライブパフォーマンス

軽井沢の多様性を映し出す、
参加型の映画祭 / コミュニティ

軽井沢で初開催となったユニバーサルな映画祭。バリアフリー字幕や手話、音声ガイドや、英語字幕などを施した映画作品の上映と、読み聞かせや音楽ライブ、トークなどの関連イベントに、親子、学生、シニア層の幅広い年代、障害のある人や外国語話者など、地域に住む様々な人が参加した。

令和4年度に地域の担い手を公募し「まるっとみんなの調査団」を結成、軽井沢～東信地域でインクルーシブな活動をしている団体へのリサーチを土台に映画祭の企画を立案。調査団は今年度、運営チームに役割を変えて継続し、月1回の会議での会場や作品の選定、関心・スキルを生かした活動を通して、映画祭のスタッフとして経験を積んだ。調査団の活動から、『ドキュメント軽井沢』の映画制作と上映にも発展した。

加えてSC軽井沢クラブ、ユナイテッド・ワールド・カレッジ ISAK ジャパン、社会福祉法人育護会浅間学園、NPO法人リベルテなど、文化・教育・福祉の関係団体と領域を横断した連携が実現し、ISAKの学生の発案からLGBTQのテーマの日が設けられたり、SC軽井沢クラブがバスを提供して上田映劇へのツアーが行われたり、浅間学園の利用者が「音遊びの会」ライブに一部参加したりと、それぞれに映画祭を構成する関わりが生まれていた。

軽井沢町の協力により、軽井沢町中央公民館を全館貸切で4日間利用できたことで、町の人々、高齢者にとって参加しやすい事業となった。公民館の使用の形態としてもユニークなイベントとなった。シンポジウムでは町長と教育長が議論に参加した。

全て想定通りの成果といかなくとも、文化芸術を媒介に、幅広く、地域に住む多様な領域・属性の関係者が主体性をもって関わる、新たなコミュニティ形成の基礎ができたことの意味は大きい。

団体所在地 | 軽井沢町 MAP B09

団体概要

軽井沢でユニバーサルな映画祭の開催を契機に、高校生からシニアまでの市民が参加し、東信地域でユニバーサルな創造・鑑賞機会の充実を目指し、企画や調査、ワークショップや上映会を実施している。

活動内容

月1回「調査団会議」実施
活動日時 | 6月-11月

クラウドファンディング実施
活動日時 | 10/31～

「みんなでつくる地域イベント 研修会」
活動会場 | 軽井沢町中央公民館
活動日時 | 11/10

まるっとみんなで映画祭2023
in KARUIZAWA
活動会場 | 軽井沢町中央公民館
活動日時 | 11/17-20

11/17 映画祭1日目
テーマ:自分らしさ、その人らしさをあらゆる人に。(全世代向け)

11/18 映画祭2日目
テーマ:性のいろいろ 見て、感じて、話して 踊ろう(幼児～10代向け)

11/19 映画祭3日目
テーマ:障害のある人もない人もまざりあう!(全世代向け)

11/20 映画祭4日目
テーマ:映画館はこどもの居場所。上田映劇へ遠足上映会(全世代向け)
シンポジウム開催

コーディネーターより

ユニバーサルな企画運営は全国的に新たなテーマだが、単に外から方法を導入するのではなく、軽井沢の中にある多様性の可視化、地域の課題としての活動の持続化が図られている点が極めて重要。(野村政之)



1 Delphine Mogarra の作品ワークショップの様子@桂林堂2F

2 中根 隆弥@旧安藤精麦

3 アーティスト・インターンが滞在したKOUTENでは夕飯時が交流の機会に

まちづくり会社に取り組むアーティスト・イン・レジデンス

辰野町の下辰野商店街界隈の空き家・空き店舗を使用し、エリア全体を美術館ととらえる「トビチ美術館」の取組。令和3(2021)年より毎年開催、今年は国内外の10組のアーティストが、空き家から出た古道具等の「空き家の幸」を用いて空間芸術/インスタレーションを発表した。

8月に旧旅館をリノベーションした宿泊滞在施設KOUTENがオープンし、これまでより多数のアーティストやインターンの人たちが同時・長期に滞在することが可能となり、また辰野町在住のアーティスト・千田泰広さんがアトリエの共用を開始したことにより作品制作環境が向上。積極的な海外への発信も行い、滞在アーティスト公募に82件、海外から60組以上の応募があった。

長期滞在により制作以外の時間が増えたことで、働く、手伝うなど、地域住民とアーティストの日常生活を介した関わりしろが生まれ、アート活動を身近に感じられる糸口になったのは新たな展開といえる。

多様な人を惹きつける仕組み

初めての試みとして、辰野美術館の展示室で事前広報も兼ね、トビチ美術館の企画コンセプトと過去2回の作品&アーカイブブック、今年の滞在アーティストを紹介する展示を実施。制作した作品と記録物が「トビチ美術館のコレクション」となり新たな財産・資源として蓄積していくことを可視化した。また本展に関連づけたトーク、ライブパフォーマンス、ダンス等のイベントを開催し、様々な興味関心の人たちに参加交流の機会のあるプロジェクトとして間口が広がった。関係人口となり再訪するアーティストも増え、展覧会会期以外も、年間通して何かしら起きている状況が醸成されつつある。

団体所在地 | 辰野町 [MAP](#) [B10](#)

団体概要

「未来はワクワクするもの」「〇の未来にワクワクする人を増やす」をミッションに、辰野町で企画・デザイン・建築を使って、今より生きやすい暮らしをつくるために活動するまちづくり会社。

活動内容

公募・長期滞在アーティスト募集開始
活動日時 | 6/7

公募アーティスト審査会
活動日時 | 7/22

トビチ美術館これまでとこれから展
活動場所 | 辰野美術館
活動日時 | 9/5-18

トビチ美術館presents
Contemporary Dance&Sound“3”開催
活動日時 | 9/17・18

トビチ美術館2023偶然、ここで。展開催
活動日時 | 10/14-11/27

アーティストによるトークイベント
活動日時 | 10/16

トビチ美術館企画2023
「星屑とアクセプタンス」
活動場所 | 辰野美術館
活動日時 | 12/5-17

新絵本雑誌「さがるまーた」刊行記念
柴田聡子×ハダタカヒトトーク&ライブ開催
活動日時 | 2024/1/7

アフター! トビチ美術館2023
偶然、ここで。展ぬりえ展開催
活動日時 | 2024/1/7-2/29

アーカイブブック完成
活動日時 | 2024/2/20

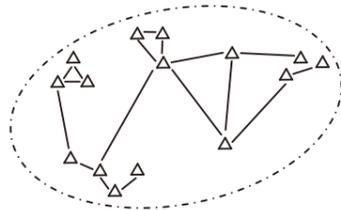
コーディネーターより

空き家・空き店舗の活用や内覧も兼ねたトビチ美術館がさらに国際交流や人材育成の役割も担っており、トビチ美術館自体が文化になっていくような取組。(佐久間圭子)

連携・協働プログラム
社会包摂(インクルーシブ)プログラム
地域創造・交流プログラム

連携・協働プログラム

Shinshu Arts-Climate Camp



Shinshu Arts-Climate Campは、2023年より発足した信州アーツカウンシルと信州大学人文学部の連携事業です。文化芸術の視点から気候変動や地域環境の課題を見つめ、長野県において行われているさまざまな取組を知り、人に学び、共に考え、変化していくコモンスペースを作っていこう、というプロジェクトです。

県内で自主的・自発的に行われている文化芸術と気候変動へのアクションを紹介する〈キャンプ〉、気候変動のアクションに対する知識や視点を学び、文化芸術や環境活動等の関係者と対話する〈会議〉、1年間の活動を振り返り、今後の活動について議論する〈総会〉、SNSやPodcastを活用して活動の内容を共有する〈報告〉の4つの要素を柱に活動を行っています。

キャンプ

長野県内で自主的・自発的に行われている気候変動や環境へのアクションを〈キャンプ〉と位置づけ、活動内容や実践者を紹介。既にある取組、人とアイデアを発掘し、ネットワークをつないでいきます。



Facebookグループ「Shinshu Arts-Climate Camp交流スペース」に寄せられた〈キャンプ〉の事例

- 劇団野らぼう 信州発「ゼロカーボン演劇」 P17
- ネイチャーピアノコンサート P27
- GR19 Presents Fashion show 「neo farm style」 P39
- ちいさがた未来民話研究会『鳴動～音が伝える災害の警鐘』 P21

会議

長野県内4地域において、気候変動へのアクションに際して踏まえたい知識や情報、視点を学ぶとともに、各地域の文化芸術、環境活動等の様々な声に耳を傾け対話する〈会議〉を巡回開催しました。

第1回 信州発、アートとゼロカーボンの明日へ

日時 | 2023年7月4日
会場 | 信州大学人文学部 (松本市)
登壇者 | 茅野恒秀 (環境社会学/信州大学人文学部准教授)
山口敦子 ((株)タナカラ/松本経済新聞編集長)
ロジャー・マクドナルド
(インディペンデント・キュレーター/NPO法人Arts Initiative Tokyo 副ディレクター)
金井直 (信州大学人文学部教授)
野村政之

第1回目は、ゼロカーボンに向けた試みなどを学んだ上で、アートとゼロカーボンをつなぐ一つの課題として考える本プロジェクトの実践が拓く可能性について、議論を深める時間となりました。茅野恒秀さんによるレクチャーでは、脱炭素社会に向けた世界でスタンダードとなっている考え方や「長野県ゼロカーボン戦略」が紹介され、個人の我慢ではなく社会の構造からの変革をすること、また「本当の豊かさを実感できる社会」を目指すことの重要性が指摘されました。トークセッションでは、レクチャーをふまえ脱炭素とアートの接点を探る議論が展開しました。



第2回 アート×気候危機 ~不可能かもしれないビジョン~

日時 | 2023年10月1日
会場 | 上田映劇 (上田市)
登壇者 | 藤川まゆみ (NPO法人上田市民エネルギー 理事長)
白井ゆみ枝 (画家・アーティスト)
佐藤公哉 (音楽家・作曲家)
竹内利彦 (サブニューマ)
ロジャー・マクドナルド

第2回の前半は、気候変動を食い止めるため、アフリカ大陸を横断し植林を行うプロジェクトを推進するために旅に出たミュージシャンを追ったドキュメンタリー映画「グレート・グリーン・ウォール」を鑑賞。幕間にはサブニューマの皆さんがアフリカの音楽やダンスを披露。後半のディスカッションではロジャーさん、藤川まゆみさんが進行を務め、県内在住アーティストの白井ゆみ枝さん、佐藤公哉さん、竹内利彦さんを招き、アートに携わるものとして気候危機に対してどう向き合うべきなのか議論を交わしました。



第3回 地球の今、美術館の明日 ~持続可能な未来をめざして~

日時 | 2023年11月23日
会場 | 長野県立美術館1階交流スペース (長野市)
登壇者 | 塩見有子 (NPO法人Arts Initiative Tokyoディレクター)
松本透 (長野県立美術館館長)
中嶋実
(小海町高原美術館学芸員/シンビズムワーキング・グループ議長)
ロジャー・マクドナルド
金井直

第3回は、2020年に設立された「ギャラリー気候連合/Gallery Climate Coalition:GCC」の実践を学びながら、県内の取組の推進について考える回となりました。

塩見有子さんによる講演では、「アートと気候変動」というテーマについて、特にアーツシステム(産業)に焦点を当て、アートの活動によって排出される温室効果ガスや廃棄物の問題などについてお話いただきました。ディスカッションでは、松本館長より脱炭素化の目標達成に向け美術館事業のあり方に関するテーマが投げかけられ、登壇者から様々な事例や可能性が示されました。



総会

2023年3月に開始したプロジェクトの1年間の記録集を作成。これを踏まえ信州アーツカウンシルがどのように課題に取り組むのかなど、今後の活動について議論しました。

Shinshu Arts-Climate Camp <総会> 2024

日時 | 2024年3月22日
会場 | キッセイ文化ホール (松本市)
登壇者 | 茅野恒秀 (信州大学人文学部)
中嶋実 (小海町高原美術館)
浜田崇 (長野県環境保全研究所)
ロジャー・マクドナルド
金井直
野村政之
記録集編集メンバー
(中野多恵、細田恵莉、藤澤智徳)

〈総会〉では、1年間の新たなアクションをまとめた記録集「ともにつくる 気候×アートのものがたり Shinshu Arts-Climate Camp Stories 2023-2024」の完成に合わせ、これまでの活動を振り返りました。はじめに記録集について説明があった後、プロジェクトに関わった方々を交えてそれぞれの活動について振り返りました。後半では「アート×気候危機」のテーマについて、今後どのように進めていくか、各参加者が取り組んできた活動を交えながらディスカッションが行われました。



第4回 森で語らう、自分たちの環境・アート・暮らし

日時 | 2024年1月20日
会場 | 奏の森 (中川村)
登壇者 | NPO法人F.O.P
劇団野らぼう
ちいさがた未来民話研究会

最終回となる第4回は、環境とアート、暮らしがいかに結びつくかを学び合う会となりました。会議の前半には、会場となった「奏の森」の取組紹介として、NPO法人F.O.Pによるライブ演奏と映像上映が行われました。後半には、2023年度信州アーツカウンシルの助成事業において気候変動とアートを主題にした取組として、劇団野らぼうによる「ゼロカーボン演劇」、ちいさがた未来民話研究会による創作民話劇の2例が紹介されました。会議終了後は、アートと自然、暮らしなど、それぞれの結びつきについて参加者同士が意見を交わしました。



photo by 安徳希仁

報告

〈キャンプ〉や〈会議〉の内容についてSNSを活用してオンラインで共有、交流を図るとともに、県内4地域の実践者へのインタビューをPodcast番組として発信。記録集を制作し議論をまとめました。

Podcast「気候とアートのダイアログ」

文化芸術の視点から気候変動やアートについて考えるポッドキャスト番組。信州・長野県において、アートを通して気候変動や気候危機の課題に取り組んでいる担い手へのインタビューを配信しています。



記録集「ともにつくる 気候×アートのものがたり」

信州大学人文学部の院生や信州アーツカウンシルの地域フェローも編集として参加し、この1年の活動をまとめた記録冊子を制作しました。



案内人

金井直 (信州大学人文学部教授)
ロジャー・マクドナルド (インディペンデント・キュレーター/
NPO法人Arts Initiative Tokyo 副ディレクター)

コーディネーター/事務局

信州アーツカウンシル (津村卓、峯村高広、宮本隆希、保谷有美、野村政之、伊藤羊子、佐久間圭子、藤澤智徳、小野佳奈)
信州大学 (大司百花、中野多恵)

主催

信州アーツカウンシル(一般財団法人長野県文化振興事業団)
信州大学人文学部、長野県
令和5年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

連携・協働プログラム / 社会包摂(インクルーシブ)プログラム

アーツコミッション・ヨコハマとの協働

日本における地域アーツカウンシル機能の先駆けとして2007年から活動しているアーツコミッション・ヨコハマ(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)と共同企画。長野県と横浜市、互いの地域特性や活動の姿を捉え、人々の交流を通して、地域を越え共感し支え合うネットワークを形成することを目的としました。

2024年2月1日(木)~2日(金)

旅する信州アーツカウンシル「学ぶ・つながるフィールドワーク」 横浜編

長野県内の文化芸術の担い手が、横浜市内のアーツコミッション・ヨコハマが事業・支援で関わる現場を訪ね、その場所で生まれている活動について学びながら交流しました。

● 訪問した場所

関内 | (公財)横浜市芸術文化振興財団、泰生ポーチ、泰生ビル、YOXO BOX 等
アートと社会をつなぐアーツコミッション・ヨコハマが当初から活動を行っているエリア。ビルをリノベーションして建築・デザイン等のクリエイターのオフィスが入居しており、連携して「関内外OPEN!」等の取組で街に開き、公共空間の活用も行っています。

緑区中山 | 753village、Co-coya、なごみ邸 等

左近山団地 | 左近山アトリエ131110、私道かびさんの作品『団地のこゑ』鑑賞
ACYアーティスト・フェローシップ助成事業で、ホストとして滞在アーティストの地域での活動をコーディネートした民間拠点。郊外で地産地消の食や農、循環型の暮らしに取り組む「Co-coya」、高齢化の進む団地でアートを通じて世代を越えた繋がりを生み、新たなコミュニティ形成に取り組む「左近山アトリエ131110」では、滞在アーティストの私道かびさんの作品を鑑賞しました。

● フォーラム&交流会 会場 | BUKATSUDO

旅する信州アーツカウンシル インターローカルセッション withアーツコミッション・ヨコハマ
「文化の多様性と暮らしのゆたかさは関係がある ~地域の循環を見つめ直すアートの営み from NAGANO」

まちづくりやケア、食や農などと接点をもちながら、循環的な地域の暮らしと持続的な文化芸術の実践を志向する長野県内の活動として、3つの団体の活動を紹介しました。

登壇者 | 佃梓(NPO法人リベルテ)、赤羽孝太((一社)〇と編集社)
カナデル幸響楽団(NPO法人F.O.P)

交流会 | なごみ邸で開催されている「Nakayama Table」の出張版として、中山(近隣)で生産される食材を味わいながら両地域の関係者が交流しました。

● ACYフォーラム 会場 | BUKATSUDO

「子どもの居場所・学び場と文化芸術のまちでの交点」

地域と連携した子どもの学びの場、居場所として文化芸術拠点や文化事業が果たす役割、その取り組み方などについての対話を行いました。

登壇者 | 岩室晶子(NPO法人ミニシティ・プラス事務局長/神奈川県横浜市)
吉川永祐(NPO法人みんなのコード クリエイティブハブ事業部 ミミミラボ コーディネーター・アーティスト/石川県金沢市)
直井恵(草の根文化芸術コーディネーター/長野県上田市)
八巻香澄(東京都現代美術館学芸員/東京都)
野村政之(信州アーツカウンシル)

主催 | アーツコミッション・ヨコハマ



泰生ポーチ



Co-coya



左近山アトリエ131110



BUKATSUDO

2024年3月1日(金)~2日(土)

「令和の横浜使節団」信州編

「令和の横浜使節団」の視察交流を信州アーツカウンシルがコーディネートし、上田エリアの担い手とその拠点・取組を紹介するとともに、長野市で開催された長野県主催「くらしふとカンファレンス」で、信州の持続可能なまちづくりの取組に参加いただきました。

主催 | アーツコミッション・ヨコハマ、信州アーツカウンシル

協力 | BUKATSUDO (株式会社リビタ)



上田映劇

● 訪問した場所

上田市 | 犀の角、上田映劇、トラウム・ライゼ、リベルテ(屯、roji、新棟)、261
長野市 | R-DEPOT、FEAT-space 大門 ほか

● 事例紹介

(一社)シアター&アーツうえだ、NPO法人場作りネット
NPO法人アイダオ、NPO法人リベルテ、くらしふとカンファレンス

その他の連携・協働プログラム

伝統文化の支援に向けた連携体制構築

南信州民俗芸能継承推進協議会との協働

情報共有、意見交換、第2回南信州民俗芸能フェスティバルの運営に対する助言、協力。

公益財団法人八十二文化財団との協働

助成事業についての情報交換、CULTURE.NAGANOでの紹介。

「南信州の祭り・民俗芸能の継承についての座談会vol.1」 開催(3月23日)

霜月神楽や風流踊の継承に関わる地域の30~50代の担い手が集い、南信州での祭り・芸能の存続の状況、木沢霜月祭野郎会10年の活動についてのプレゼンテーション、それぞれの地区や人によっての継承への意識などについて意見交換を行いました。



文化芸術に対する寄付促進に向けた取組

- 公益財団法人長野県みらい基金との連携
- まつもとフィルム commonsによる、長野県みらいベースでのクラウドファンディング、「信州の特色ある学び」応援事業などでの連携、協力
- 寄付を活用した信州アーツカウンシルの新たな資金調達や、長野県以外の財源へのリーチについての話し合い。

社会包摂(インクルーシブ)プログラム

障がい者福祉、高齢者福祉、多文化共生などに関わる文化芸術活動を、課題共有する団体等と協働して取り組みます。令和5年度は、「ザワメキサポートセンター」(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)との協働を推進しました。

ザワメキサポートセンターとの協働

- ザワメキサポートセンター(長野県障がい者芸術文化活動支援センター/社会福祉法人長野県社会福祉事業団)との連携会議を毎月開催し、情報共有と意見交換。
- 「ザワメキアート展 2023 Roots of Arts」を共催。広報等の支援。



地域創造・交流プログラム

NAGANO ORGANIC AIR



「NAGANO ORGANIC AIR」は、様々なジャンルで活躍するアーティストが、長野県内の各地域に滞在し、創造活動を行うアーティスト・イン・レジデンス(AIR)の取組です。公立文化施設や地域の文化芸術団体、教育委員会などがホストとなり、地域での創作のプロセスをコーディネートしながら、アーティストとの双方向的な協働を試みます。「ORGANIC=有機的」をキーワードに、アーティストの創作意欲を刺激するローカルな営みとの出会いにフォーカスした滞在制作を実施。2023年度は長野県内5郡市町村にて4組6名のアーティストが、各地の自然や風土、食や歴史文化を反映した、地域色ゆたかな活動を展開しました。

NAGANO ORGANIC AIRでは、これからも長野県におけるアートの創造活動を育み、地域に有機的に広げ、持続的な環境づくりに繋げていきます。

NAGANO ORGANIC AIR 2023

実施期間 | 2023年4月～2024年3月

実施場所 | 長野県小谷村、大町市、安曇野市、茅野市、大鹿村

主催 | 信州アーツカウンシル (一般財団法人長野県文化振興事業団)、長野県
令和5年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

企画 | 信州アーツカウンシル (一般財団法人長野県文化振興事業団)
[津村卓、峯村高広、宮本隆希、保谷有美、野村政之、伊藤羊子、佐久間圭子、藤澤智徳、小野佳奈]

アシスタント・コーディネーター | 一般社団法人シアター&アーツうえだ (村上梓)

小谷村

主催 | 信州アーツカウンシル
(一般財団法人長野県文化振興事業団)
長野県
共催 | 小谷村



小谷村
森との関わり / 地域と地球の未来

大町市

主催 | 大町市プロモーション委員会
共催 | 信州アーツカウンシル
[NAGANO ORGANIC AIR]
協力 | 北アルプス国際芸術祭実行委員会



大町市
くろよん60市街地
シャッターアート

安曇野市

主催 | 安曇野市教育委員会
共催 | 信州アーツカウンシル
(一般財団法人長野県文化振興事業団)
長野県



安曇野市
続・踊るからだで
見つめる
安曇野の暮らし

茅野市

主催 | 茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造
共催 | 信州アーツカウンシル
(一般財団法人長野県文化振興事業団)
長野県
助成 | 一般財団法人地域創造

大鹿村

主催 | 信州アーツカウンシル
(一般財団法人長野県文化振興事業団)
長野県
共催 | 大鹿村

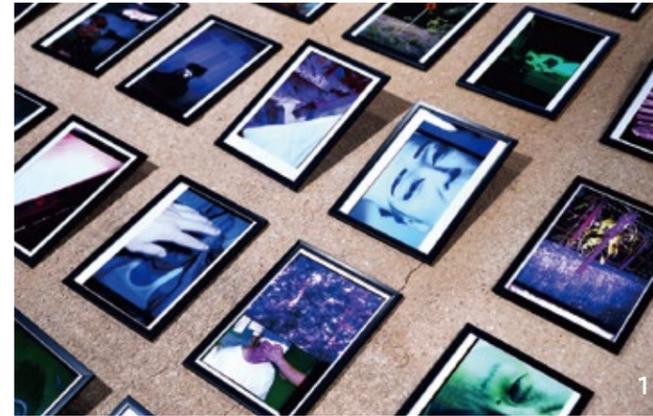


大鹿村
「簡単じゃない。だから、面白い。」
大鹿村アーティスト・イン・レジデンス



大鹿村 Oshika Vil.

「簡単じゃない。だから、面白い。」 大鹿村アーティスト・イン・レジデンス



1 大鹿歌舞伎写真展
「三百年乱反射、再演奉ル」展示の様子
2 地域の方が大鹿歌舞伎を撮影
3 着付・化粧体験ワークショップの様子

事業概要

南アルプスの麓に位置し、国重要無形民俗文化財に指定されている地芝居「大鹿歌舞伎」を村ぐるみで継承する大鹿村に、写真家の秦雅則さんが滞在。地域住民の中から撮影者、モデル等を公募、オートフォーカスのフィルムカメラを用い、村民参加で、大鹿歌舞伎を題材とした写真集づくりに取り組んでいます。

滞在初回の6月は、役者や裏方、様々な役割で大鹿歌舞伎の舞台をつくり上げている大鹿歌舞伎愛好会の皆さんと顔合わせを行って企画をご説明し、大鹿村内をリサーチしました。

8月の滞在では、秋の中学生歌舞伎に向けて、大鹿中学校の皆さんが化粧と着付を体験する「化粧講習会」が開催され、村民カメラマンと撮影を行いました。

続いて9月から10月にかけては約1ヶ月半の長期滞在を実施。9月17日には、愛好会の皆さんにご協力いただき、秋の定期公演で会場となる市場神社の舞台上で、化粧・衣装をつけ本番さながらの稽古を撮影しました。舞台上に上がりこんで撮影したり、本番上演では不可能な方法や状態で撮ることができました。10月は中学生歌舞伎、雨で大鹿中学校体育館での上演となった秋の定期公演、長野市への出前公演など、公演が目白押し、秦さんも帯同して撮影を重ねました。

3月には、ここまで撮影した写真を地域の方々にご覧いただく機会として、大鹿村民俗資料館ろくべん館で写真展「三百年乱反射、再演奉ル」を開催。展示最終日の3月30日には着付・化粧体験のワークショップも開催し、参加者をモデルとした撮影も実施しました。

秦さんの撮影は令和6(2024)年5月の大鹿歌舞伎・春の定期公演まで続きました。今後編集作業に入り、地域とつくる唯一無二の写真集を仕上げしていきます。

滞在期間

- ・6/24-27 地域カメラマンとの顔合わせ・村内リサーチ
- ・8/4-11 大鹿歌舞伎化粧講習会撮影 ほか
- ・9/14-10/27 歌舞伎稽古・中学生歌舞伎・大鹿歌舞伎撮影 ほか
- ・12/28-29 展示準備
- ・2/29-3/2 大鹿歌舞伎写真展「三百年乱反射、再演奉ル」展示準備
- ・3/29-3/31 着付・化粧体験ワークショップ実施

アーティスト | 秦雅則



1984年、日本生まれ。写真というイメージを用いて社会的価値観に矛盾を生じさせる作品を制作している。それは時に、相反するものの共存を作り出したり、共存していること自体を揺るがせたりして、世界の認識の危うさを証明する仕組みを作りだす。そして、その実践の場所として、独立したメディアであるギャラリー・出版社を運営し、美術作品の発表だけでなく、様々な環境の人々とのコラボレーションによる展示や出版物の企画もしている。

ホスト | 信州大鹿歌舞伎愛好会



大鹿村は長野県の南部に位置し、南アルプスの麓にある典型的な谷合の村です。山奥の村ではありますが歴史的には非常に古く、江戸時代・約300年前から伝承してきている、「大鹿歌舞伎」は、地芝居としては全国初となる、国の重要無形民俗文化財に指定されました。現在、年2回の定期公演を実施しており、地芝居を通じて地域文化の発信と交流の場でありたいと考えております。

みちのちのダンススケープ



1 「みちのちの10 SCENES」終演後、出演者・スタッフ全員での一枚
2 「みちのちの10 SCENES」上演の様子
3 森下真樹さんは念願の八ヶ岳全山登頂を果たした

事業概要

茅野市民館を拠点に、ダンサー・振付家の森下真樹さんと写真家の石川直樹さんが滞在制作を行った「みちのちのダンススケープ」。諏訪湖から八ヶ岳に広がる地域でリサーチと創作を続けてきたプロジェクトが、3年目の集大成を迎えました。

5月は、照りつける太陽の下、森下さんと石川さんが諏訪湖一周をランニング。周回約16kmの湖岸をそれぞれのペースで走り、身体を通じて湖の大きさを体感しました。

7月には森下さんが八ヶ岳の蓼科山～北横岳・茶臼山に登頂し、昨年度登った山も含めて念願の八ヶ岳全山登頂を果たしました。

12月12日は、諏訪清陵高校・附属中学校を訪問し、石川さんが生徒の通学の様子や授業風景を撮影したほか、石川さんの講演会、石川さんと写真部・森下さんとダンス部の交流など盛り沢山の1日となりました。また、12月23日には茅野市民館でダンスと写真のワークショップを同時並行で開催し、一部を合同で行いました。

そして、これまでの活動をもとに、2月7日～18日の12日間、「みちのちの10 SCENES」と題してフォトポスターの掲示とダンス・パフォーマンスの作品を発表、また、3年間のプロセスを振り返る展示を行いました。

「石川直樹 PHOTO POSTERS プロジェクト」では旧御射山遺跡や万治の石仏など、石川さんがこれまで撮影した写真から10種類のポスターを制作し、諏訪～八ヶ岳エリアを中心に、ゆかりあるスポットに掲示。最終日18日には森下さんと石川さんが構成・演出・出演でコラボレーションしたダンス・パフォーマンスを上演。諏訪大社御柱祭や八ヶ岳縦走などリサーチから派生した10個のシーンを構成し、木遣衆、地域在住の音楽家、ワークショップ参加者「みちのちのダンサーズ」など、これまで関わった多くの方々を巻き込んだ大団円となりました。

滞在期間

- ・5/17-18 諏訪湖一周リサーチ 【森下・石川】
- ・7/27-30 八ヶ岳登山 【森下】
- ・10/24 諏訪清陵高校・附属中学校下見 【石川】
- ・12/11-12 諏訪清陵高校・附属中学校での撮影・交流会 【森下・石川】
- ・12/22-23 森下真樹ダンスワークショップ/石川直樹写真ワークショップ
- ・1/12-14 クリエイション・ダンスワークショップ 【森下】
- ・2/14-18 「みちのちの10SCENES」クリエイション・本番 【森下・石川】

アーティスト | 森下真樹

幼少期に転勤族に育ち転校先の友達作りで開発した遊びがダンスのルーツ。これまでに10か国30都市以上でソロ作品を上演。様々な分野のアーティストとコラボし活動の場を広げる。2013年現代美術家 東芋との作品『錆からでた実』を発表し第8回日本ダンスフォーラム賞を受賞。2017年より自身のソロ「ベートーヴェン交響曲第5番『運命』全楽章を踊る」(振付:MIKIKO、森山未来、石川直樹、笠井叡)を展開。100人100様をモットーにワークショップや作品づくりを行う。



アーティスト | 石川直樹

1977年東京生まれ。写真家。東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。辺境から都市まであらゆる場所を旅しながら、作品を発表し続けている。2010年『CORONA』(青土社)により土門拳賞、2020年『まれびと』(小学館)、『EVEREST』(CCCメディアハウス)により日本写真協会賞作家賞を受賞。著書に、開高健ノンフィクション賞を受賞した『最後の冒険家』(集英社)、『地上に星座をつくる』(新潮社)ほか多数。



ホスト | 茅野市民館

八ヶ岳山麓の高原都市、茅野市にある茅野市民館は、茅野市美術館を併設し、劇場・音楽ホール、市民ギャラリー、図書室など多様な機能を合わせ持ち、JR茅野駅に直結した文化複合施設です。「市民一人ひとりが主人公になれる場」の理念のもと、基本構想から市民が直接参加してつくりられました。さまざまな表現やアートに親しみ、文化をつくり、人々が集う地域の交流拠点を目指しています。



続・踊るからだで見つめる安曇野の暮らし

アーティスト | ...1[アマリイチ] (斉藤綾子・益田さち) ホスト | 安曇野市教育委員会(文化課)



事業概要

2021年度から始まったダンスユニット...1[アマリイチ]の滞在最終年。5月の滞在では、国営アルプスあづみの公園で行われた「第19回早春賦音楽祭」に特別出演し、あいにくの雨天をものともせず、国営アルプスあづみの公園内の様々な場所でダンスを披露しました。

つづく11月の滞在では、3年間の滞在の集大成として、鐘の鳴る丘集会所を舞台に「Dancer in The 鐘の鳴る丘集会所」を実施。11月11-12日の2日間、集会所を開放し、これまでの歩みを振り返る写真展示や、郷土食「えご」づくり、また2021年度より振付を安曇野版に変えながら踊り続けているダンス作品「うちそと」をツアー形式で発表するなど、様々な催しが行われ、3年間のまとめとなりました。

くろよん60市街地シャッターアート

アーティスト | 園田源二郎 ホスト | 大町市プロモーション委員会



事業概要

黒部ダム竣工60周年を記念して、大町市街地を舞台にシャッターアートプロジェクトを開催。公募により選出されたアーティストの園田源二郎さん、信濃大町観光大使の鉄拳さん、地元アーティスト、高校生、中学生が、信濃大町駅前本通り商店街の使っていないシャッターの前に、黒部ダムをテーマにした大判の絵画作品を制作、6月から11月にわたって展示しました。また、園田さんは滞在中、子どもも大人も参加できるワークショップを実施し、アクリル板と流木を用い「水滴」をテーマとした作品を制作し、黒部ダムレストハウスや信濃大町駅、大町名店街など市内各所にて展示しました。

森との関わり / 地域と地球の未来

アーティスト | フロリアン・ガデン ホスト | 小谷村(観光地域振興課)



事業概要

長野県の最西北端、北アルプスなどの山々に囲まれた小谷村で、森の活用や未来の地域のあり方をテーマにしたAIRを企画。令和6(2024)年1月より、滞在アーティストを公募し、96組の応募の中から、フロリアン・ガデンさんを選出しました。地域の自然環境に生息する多種多様な生き物を繊細な筆致で描くフロリアン・ガデンさんが小谷村に滞在し、地域住民の皆さんと関わりながら、どのような制作を進めるのか楽しみです。

ウェブサイトリニューアル

本年度よりNAGANO ORGANIC AIRのウェブサイトリニューアルし、県内で募集・開催しているアーティスト・イン・レジデンスの情報を集約するとともに、これまで実施してきた事業も年度ごとにアーカイブされるようになりました。また、アーティストを受け入れるホストをマップ上から探すことができるようになり、長野県に滞在したいアーティストや、アーティストを受け入れたいホストにとって、より使いやすいサイトとなりました。



地域創造・交流プログラム

SHINBISM

「シンビズム5-信州ミュージアムネットワークが選んだ作家たち」展、 県「アートの手法を活用した学び推進事業」をはじめとする対話鑑賞事業

事業概要

県内各地の美術館・博物館等の学芸員が公立・民間等所属の別なく集い、長野県ゆかりの作家を取り上げる企画展「シンビズム」(※)の開催を通して、互いに学び、協力関係を強化しています。

具体的な取組としては、活動を開始した平成28(2016)年度から令和3(2021)年度の第4回展完了まで、計14会場において、累計104名の学芸員が参加し、65名の県ゆかりの作家を紹介しました。

R5年度はシンビズム4までに培ってきたワーキンググループ学芸員たちの“現代美術への眼差し”を基盤として、一般のみならず幅広く知ってほしい作家を選抜し、県内4会場で計11名によるグループショウを開催しました。また、県内の学芸員チーム企画による全県域のグループショウを基盤に、会場館だけでなく当該地域の学校に「対話鑑賞」を普及することをめざしました。

「対話鑑賞」については県「アートの手法を活用した学び推進事業」に参画し、対話鑑賞の県内教員向けワークショップの開催、プログラム実施校へのファシリテーター(学芸員)派遣を実施しました。また、DNPミュージアムラボ、スウェーデン国立美術館との協働によるワークショップ、シンポジウムを実施し、企画制作力の向上をめざしました。

※シンビズム=「信州の美術の主義」の造語で、新しい美術、真の美術、親しい美術等の意味を含んでいます。

実績概要

■ シンビズム5 開催会場・会期

	会場	会期
1	【山ノ内町】 山ノ内町立志賀高原ロマン美術館	7月1日(土)~9月3日(日)
2	【東御市】 丸山晚霞記念館	8月5日(土)~8月27日(日)
3	【小海町】 小海町高原美術館	9月16日(土)~11月12日(日)
4	【伊那市】 信州高遠美術館	12月3日(日)~R6年1月14日(日)

■ 出品作家 ※各出品会場は上記の1~4会場

- 1 高見澤 文雄(絵画 サウンド他)、中村 ヒカル(陶)、ムカイヤマ 達也(絵画・インスタレーション)
- 2 赤羽 史亮(絵画)、長門 裕幸(絵画)
- 3 疋田 義明(油彩)、丸山 富之(彫刻)、横山 昌伸(インスタレーション)
- 4 津金 多朗(陶立体造形、絵画)、丸山 晋一(写真)、持田 敦子(インスタレーション)

■ 入場料 一般:500円、高校生以下無料

- 主催 信州アーツカウンシル((一財)長野県文化振興事業団)、長野県
- 共催 東御市、伊那市、山ノ内町教育委員会、小海町教育委員会、信濃毎日新聞社
- 助成 令和5年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業、一般財団法人地域創造

山ノ内町立志賀高原ロマン美術館
2023/7/1(土)~9/3(日)



高見澤 文雄 [絵画 サウンド他]



中村 ヒカル [陶]



ムカイヤマ 達也 [油彩・インスタレーション]

丸山晚霞記念館
2023/8/5(土)~8/27(日)



赤羽 史亮 [絵画]



長門 裕幸 [絵画]

小海町高原美術館
2023/9/16(土)~11/12(日)



疋田 義明 [絵画]



丸山 富之 [彫刻]

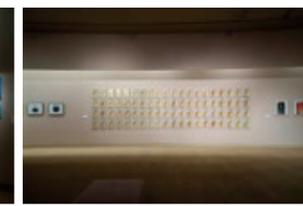


横山 昌伸 [インスタレーション]

信州高遠美術館
2023/12/3(日)~2024/1/14(日)



津金 多朗 [陶立体造形、絵画]



丸山 晋一 [写真]



持田 敦子 [インスタレーション]

顧問 | 松本 透(一般財団法人長野県文化振興事業団理事、長野県立美術館長)
運営アドバイザー | 石川利江(ISHIKAWA地域文化企画室代表)
エデュケーショナルアドバイザー | 三澤一実(武蔵野美術大学教授)
企画・構成 | 信州ミュージアム・ネットワーク「シンビズム5」ワーキンググループ

名取淳一・中嶋実(小海町高原美術館)、工藤美幸(佐久市)、佐藤聡史(丸山晚霞記念館)、大竹永明(東御市梅野記念絵画館・ふれあい館)
由井はる奈(佐久市立近代美術館)、伊能あずさ(川崎市立美術館)、鷹野雪菜、宮下真美(軽井沢ニューアートミュージアム)
清水雄・山極佳子(上田市立美術館)、加藤泰子(心の花美術館 in 上田)、山岸吉郎・河西見佳(イルフ童画館)
丸山綾(諏訪市教育委員会)、前田忠史・中田麻衣子(茅野市美術館)、小松由以(信州高遠美術館)、武井敏((公財)碓山美術館)
三澤新弥・塩原理絵子(安曇野市教育委員会)、冨永淳子(安曇野高橋節郎記念美術館)、伊藤幸穂(木曾町教育委員会)
梨本有見(須坂版画美術館)、布谷理恵(千曲市アートまちかど)、田中新十郎(田中本家博物館)
阿部澄夫((一社)一本木公園バラの会 信州中野銅石版画ミュージアム)、鈴木一史(山ノ内町立志賀高原ロマン美術館)
矢ヶ崎結花、小林宏子(前中野市立博物館)、伊藤羊子((一財)長野県文化振興事業団)

■ 展覧会入場者

有料入場者 2,021名 無料入場者 646名 招待者 899名 入場者合計3,566名

■ 地域交流プログラムの参加者数等

「対話を通じた作品鑑賞」等児童生徒にむけた事業 22回 790名
「対話を通じた作品鑑賞」等一般・教員にむけた事業 28回 679名 計 1,469名

地域創造・交流プログラム

SHINBISM

事業の成果等

事業の目的・趣旨

当初の目的・趣旨に対して得られた成果

新しい取り組みによる成果の具体的事例

1 アーティスト・イン・レジデンス / リサーチによる作品制作

小海会場 作家 | 横山 昌伸氏

シンビズム5展については、当初、外部評価委員から示唆された「リサーチ系アーティストの紹介」に新たに挑戦し、小海会場において横山昌伸氏が同町に約半年間滞在しながら農業、商業フェーズとして実際に地元で働きながら制作企画を行いました。地域調査では、地元の林業に着目し、林業に携わる多様な担い手9名のインタビューを通して、インスタレーションを制作しました。

また、展覧会作品制作後は、教育フェーズとして、小海町内の小、中、高校において授業を行い、児童生徒とともにインスタレーションワークショップ等、制作にかかわるワークショップや自身の作品作りに関するギャラリートークを実施しました。

2 環境に配慮した取り組み

伊那市高遠会場 作家 | 持田 敦子氏

出品作家の持田敦子氏は、信州アーツカウンシル事業「Shinshu Arts-Climate Camp」に呼応して、展示空間に使用する台や椅子を家屋解体部材で制作し、展示後はこれらの什器を県内の古材と古道具を販売する建築建材のリサイクルショップに流通させることで、展示什器の利活用を実践しました。

3 スウェーデン国立美術館、大日本印刷(株)DNPミュージアムラボとの協働による対話鑑賞

小海会場および東御市内・小海町域小中学校

DNPミュージアムラボではシンビズムとの協働事業として、同所がスウェーデン国立美術館と取り組む対話鑑賞プログラムを東御市内・小海町域5校の小中学校で実施しました。また、小海会場でシンポジウムを開催し、スウェーデン国立美術館教育部長やDNPミュージアムラボスタッフ、シンビズムWG学芸員、教員、関係者が参加して、対話鑑賞の具体的な手法や有効性について意見交換を行いました。

地域交流プログラム

美術館での対話鑑賞と並行して、学校での対話鑑賞の推進をはかるため、シンビズム学芸員がファシリテーターとなり、県と連携して県内4会場にて教員向けワークショップの開催やプログラム実施校へのファシリテーター(学芸員)派遣を実施しました。東御市における市内全小中学校全学級での朝鑑賞※の導入や、DNPミュージアムラボとの協働事業スウェーデン国立美術館教育部長による東御市内、小海町域5校の小中学校での対話鑑賞研修と併せて、県内学校、美術館・博物館にむけて学校現場での対話鑑賞の具体的な方法や有効性を波状的にアピールすることが出来ました。

本年度の実施により、学校の対話鑑賞は、①教科授業(図工美術等)での活用のほか、②朝鑑賞による担任・児童生徒間でのコミュニケーションづくり、③人権教育での他者の意見への傾聴に効果があることを実感できました。

また、作家派遣や学芸員が実物の作品を学校へ持参して行う場合だけでなく、「一人一台端末」が実現した現在では、出品作家等の作品画像データを学校に提供することで、担任教諭自身がファシリテーターとなり、対話鑑賞が容易に導入できるようになりました。今後は、以上の今年度の成果を「連携・協働型アウトリーチ」プログラムとして整理し、モデルケースを学校現場に提案し、さらなる普及をめざします。

※朝鑑賞とは 「朝読書」などの授業外の短い時間を活用して行う美術鑑賞プログラムです。各クラスの学級担任の先生がファシリテーター(進行役)となって作品を鑑賞しながら、子どもたちが感じたことや思いついたことを自由に発言できる場を作ります。



アーティスト・イン・レジデンス
リサーチによる作品制作
横山昌伸氏

環境に配慮した取り組み
持田敦子氏

スウェーデン国立美術館、大日本印刷(株)DNPミュージアムラボとの
協働による対話鑑賞

制作手法

●「県内の学芸員の自力強化」を目的とした所属を超えた学芸員の協働体系

外部からゲストキュレーターを招くのではなく、所属を超えた県内の学芸員チームが、テーマ設定から出品作家選出、会場構成、講座講師・シンポジウムパネリストまで一切を自前で実施しました。

今回から4美術館でのグループショウと並行して、県内での対話鑑賞事業を展開したため、ワーキンググループ内に展示班や教育普及班、広報班等を設置し、各学芸員が関心の高い班に所属して、班を中心に活動しました。

具体的には学校と連携した対話鑑賞プログラムの実施については、専門的に対話鑑賞を研究、実施している学芸員が核となり他の教育普及班メンバーに指導、助言を行いながら、学芸員同士が対話鑑賞の実践のなかでファシリテーター技術の向上をはかりました。

●「対話鑑賞」を会場館だけでなく当該地域の学校に拡大実施

「美術館における教育普及事業が、地域や暮らしのなかに浸透していかない」という課題解決のために、シンビズムでは学校での対話鑑賞に取り組んでいます。対話鑑賞は、美術鑑賞の一手法に留まらず、コミュニケーション能力の向上やメタ認知獲得に成果があることが指摘されています。

そこでR5年度は東御市内全小中学校・全学級での朝鑑賞の実施と連携し、県の教員研修を実施しながら、先生方をファシリテーターとして養成し、学校内で対話鑑賞を実施してもらう取り組みを開始しました。

おりしも児童生徒一人一台タブレットシステムが確立されたことによって、美術館側は画像データの提供、ファシリテーションの支援業務を行い、美術館と学校との業務のすみわけが可能となりました。

●新しい取り組みの成果の伝達

p58に記載した新しい取り組みによる成果の具体的事例を、シンビズムWG会議や2月末に実施した事業報告会(オンライン併用)、公式サイト等で周知し、県内の公立文化施設等に波及させる活動を行いました。

課題及び次年度以降の継承・展開

■課題

- R5年4月に施行された博物館法の改正によって求められる博物館の使命は、ますます多様化し、美術館等文化施設職員の業務は増大している。こうした状況で、志高く、本事業のような連携協働事業に参加する新たな人材を増やしていけるか。
- 美術館に限らず、博物館、文学館等他分野のミュージアム学芸員にも参加いただける方法を提案できるか。
- 4会場に等しくアンケート用紙を依頼したが、館による意識の違いにより2館においては回収が出来なかった。

■次年度以降の継承・展開

- R4,5年度で培った「ピエンナーレ方式」のシンビズム展開をめざし、継続的に県内学芸員にシンビズムワーキンググループへの参加を呼びかけ、2018年度に開催したシンビズム2の振り返り展を開催し、学校での対話鑑賞普及に努めます。
- 県内の美術館から「新人学芸員の研修、OJTの場」を求められていることから、新規の担い手が参加しやすいシステムを検討します。
- 学校での対話鑑賞の普及では、県と市町村との業務のすみ分け一市町村においては学校と美術館・所管部局による実施例の蓄積、県においては教員研修、転出された実施教員の追跡調査、有識者による各市町村実施事例の分析を行いながら、実施市町村の拡充をはかり、「連携・協働型アウトリーチ」プログラムの企画制作力の向上をめざします。
- アンケートは会場館の意識の差異や、手を煩わせずに回収率をあげるため、紙媒体だけでなく、スマホ・タブレットによる収集を実施します。

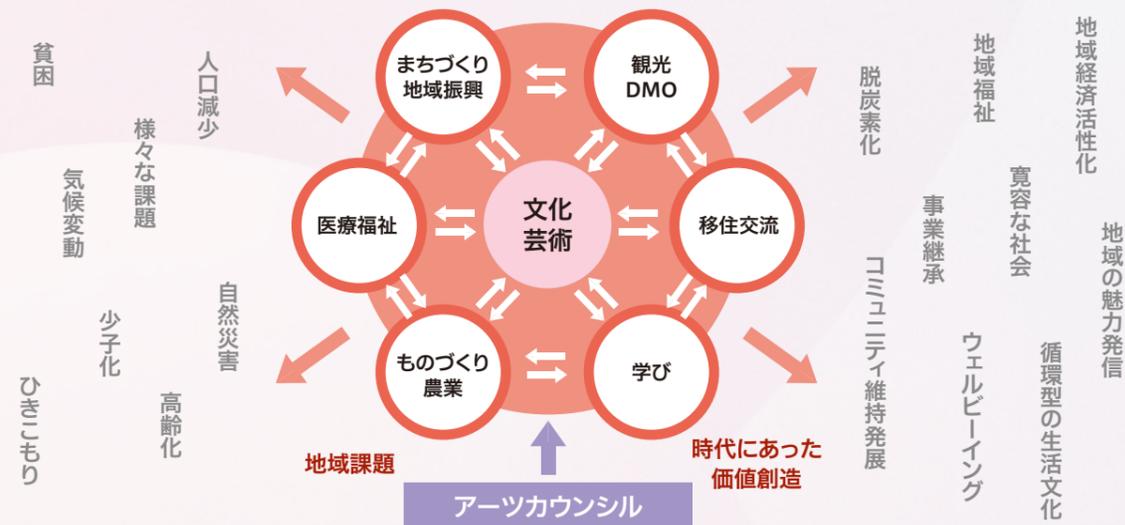
Column 地域アーツカウンシルを介した共創の構造

■ 文化芸術を媒介にした協働・共創のモデル

長野県における文化芸術の中間支援組織として、信州アーツカウンシルが目指すところについて、昨年のアニュアルレポートでは「信州アーツカウンシル連携のモデル」と「文化的コモンズ」の考え方を補助線に書きました。

信州アーツカウンシルの活動のあり方を示すために、今の社会状況において重要な観点として「文化芸術を媒介にした協働・共創のモデル」について説明をしたいと思います(図)。

文化芸術を支援しエンパワーすることによって、文化芸術が「お皿」になって、媒介として、観光／教育／福祉／まちづくり／移住定住等々、様々な分野の取り組みが繋がります。そして、〇〇×文化、〇〇×文化×〇〇、といった形で、地域の中に新たな人の繋がりが生まれ、人口減少・高齢化や気候変動といった「地域課題」、あるいは様々な魅力づくりに繋がるような「時代にあった価値創造」に取り組み、推進する新たなチームワークが可能になります。文化芸術は、そうした地域課題と価値創造に取り組み、新たな地域コミュニティやネットワーク、価値観が異なる人たち同士の出逢いの機会をつくる働きがあります。



■ 文化芸術の社会的価値

ではなぜ、文化芸術が重要なのでしょうか。その働きや役割をもつのでしょうか。ひとつは、文化芸術は「楽しい」「面白い」といった一人ひとりの感性や判断、前向きな意識を介して出逢う場を生み出すから、ということがあると思います。

信州アーツカウンシルの助成事業では、基本的に新しいチャレンジを応援しています。助成事業の募集要項には、「対象となる活動」として

長野県の文化芸術の持続的な発展に資する可能性があり、チャレンジ精神や創意工夫の見られる活動で、自らの問題意識に基づいて社会における課題を設定し、様々な人や組織との連携・協働を行いながら取り組む活動。と書かれています。

よく、「文化芸術は人の生き死には関係がない／不要不急」というようなことを言われます。これを逆にとれば、「文化芸術の新しいチャレンジの場には、『やりたい』『面白そう』『興味がある』という人が集まる」ということです。やなくても死なないし、損得がわからないからこそ、自発性や自律性が生まれます。上下関係やメリット/デメリットの計算から足を引っ張り合うのではなく、変化や創造に前向きな人たちが集い、それぞれの感性や能力をお互いに認めあうことで、チャレンジ精神をもった新しいチームワークができる…としたら、この連携・協働は今の地域のなかで、極めて得難いリソースになります。

文化芸術が人を惹きつけ、認め、繋ぐ、という潜在力が、答えの見えない現代社会、地域社会にとって必要のある「きっかけ」を生み出す、ということだと考えられると思います。

翻って「生き死にや儲けに関係しないものは不要である」と多くの人が考えてしまうことが、現在の様々な社会課題を深めてしまっているかもしれません。

■ 地域再生と次代のアート創造

令和5年度、信州アーツカウンシルではShinshu Arts-Climate Campの活動を通して「気候変動」の課題に対する、文化芸術からのアクションについて検討をしてきました。

脱炭素、持続可能な循環型社会の確立、温室効果ガス排出抑制など、産業革命以降の近代文明に支えられた私たちの社会生活全体に関わる課題です。行政が取り組む必要がある課題であると同時に、官民関係なく、様々な職種の団体や個人、そして地域コミュニティで取り組まなければならないことでもあります。そして、気候変動から生じる、これからの環境変化に対峙しなければならないのは、現役世代以上に次代を担う子どもたちであったりもします。

アート関係者だけが行動しても課題解決しませんが、他方、美術館や劇場、アートプロジェクトの様々な創造現場においても、脱炭素や資源循環、廃棄物の削減は自分たちで解決に向けて進まなければならない課題となっています。

また、信州アーツカウンシル主催事業では「伝統文化の支援に向けた連携体制の構築」という取組も、設立以来続けています。

県内各地域に受け継がれてきた伝統文化の継承が課題となっていますが、根本的な要因は、地域の人口減少と農業を基礎とした伝統的な共同体による暮らしの減退です。社会の産業構造の変化と、私たち自身の生活スタイルの変化により、過疎地域が広がり、農業や年中行事を媒介にした地域コミュニティの維持が難しくなってきたことがあります。

これらの課題に対して、どのように取り組めば望ましい状況の改善が進み、成果が出るのか。現段階で答えは見えていませんが、いずれの課題もこの100年くらいの社会の変化によって加速してきている問題です。私たち現役世代の大人が、成長の過程で教育され、よしとされて学んできた価値観が、今、全てとはいわないまでも問い直されている。再考しなければならないといえるのではないのでしょうか。

音楽や美術や演劇といった形で導入されてきた近現代の芸術／アートについても同じことがいえると思います。アートのクリエイティビティ(創造性)を取り入れつつも、地域文化の多様なあり方、日常生活や地域の自然環境、持続的・循環的な暮らしと調和したアートのあり方は、まだ完全には見出されていません。

信州アーツカウンシルでは、地域振興と先進的な文化芸術を対立するものとは捉えません。現状を完成したものと考えず、常に社会環境が変化することを受け止めながら、現代の様々な知識やツールと伝統的な生活文化の知恵をそれぞれ活用して、地域文化／地域の持続的な暮らしの豊かさとは何かを考える。

そうした課題解決や価値創造、地域再生の、新たな発想をもった人々のチャレンジを通してこそ、次代の価値観を備えた未知のアート創造が可能になる、と考えます。

野村政之(ゼネラルコーディネーター)

その他の取組

認知度向上に向け信州アーツカウンシルが実施した事業のほか、イベントへの出展や登壇をまとめました。



信州大学人文学部での講義
4月17日 信州大学人文学部 (松本市)



信州で活動しませんか?
アート・文化×移住定住・関係人口 vol.01
5月14日 銀座NAGANO (東京)



長野県知事への成果報告会
6月7日 長野県庁 (長野市)



信州アーツカウンシル2023交流会
6月10日 ホクト文化ホール (長野市)



SHIP県庁夜大学
「まつもと日和」上映会【共同企画】
9月13日 長野県庁 (長野市)



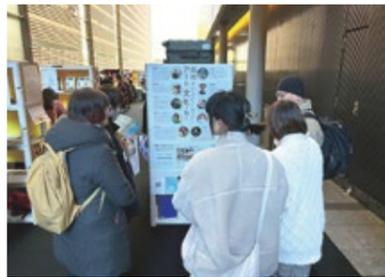
信州アーツカウンシルプレス向け説明会
10月4日 県立長野図書館3F 学び・創造ラボ
(長野市)



北アルプスの麓で暮らし
働く大相談会2023【ブース出展】
11月18日 東京交通会館 (東京)



「琉球芸能の華やぎ～古典芸能から現代まで～」
公演【企画協力】
11月26日 北野文芸座 (長野市)



ART JOB FAIR2024【ブース出展/登壇】
1月27-28日 東京ビル TOKIA
西側ギャラリー (東京)



くらしふとカンファレンス2024【登壇】
3月2日 くらしふと信州拠点 ほか
(長野市)



信州で活動しませんか?
アート・文化×移住定住・関係人口 vol.02
3月17日 銀座NAGANO (東京)



アドバイザーボード会議
9月28日 オンライン
3月26日 ホクト文化ホール (長野市)

SHINSHU Arts Council 2023 ANNUAL REPORT
信州アーツカウンシル 令和5年度活動報告

令和6(2024)年6月発行

企画・編集 | 信州アーツカウンシル
(一般財団法人長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進局)

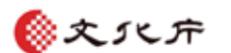
編集デザイン | 北林南 (合同会社伊那谷サラウンド)

発行 | 信州アーツカウンシル
〒380-0928 長野県長野市若里1-1-4 県立長野図書館1階
TEL | 026-223-2111
FAX | 026-223-2112
MAIL | artscouncil@naganobunka.or.jp
WEB | shinshu-artscouncil.jp

信州アーツカウンシルは、長野県文化振興基金により運営されています。

令和6年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

信州アーツカウンシル
(一般財団法人長野県文化振興事業団)



環境に配慮した用紙を使用しています